

令和8年度

全国学力・学習状況調査結果

令和8年9月
小樽市教育委員会

令和8年度

全国学力・学習状況調査結果

令和8年度全国学力・学習状況調査は、小学校第6学年、中学校第3学年の全児童生徒及び市内29校を対象に実施されました。

小樽市教育委員会では、令和元年度より、本市の子どもたちの課題解決のための「小樽授業づくりの5つのSTEP!!」を示し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図るとともに、学習意欲の向上と学習習慣の確立をめざし、各種研修会などを通じて指導内容や指導方法の工夫改善に努めております。

また、本調査は子どもたちの学力・学習状況を把握する大切な資料の一つであると捉えており、調査結果から見えてくる課題等については、学校間の序列化や過度な競争につながらないように配慮しながら、地域、保護者の皆さんに説明する責任があるものと考えます。

本書では、調査結果のポイントや児童生徒質問調査結果と平均正答率との相関を示しております。今後は、授業改善の方策についての協議等を通して改善策を示し、学力向上の一層の充実を図ってまいります。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

小学校第6学年・中学校第3学年の全児童生徒

3 調査の内容

(1) 教科に関する調査〔国語・算数・数学・英語〕

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれ学年教科に関し、以下のとおりとする。また、出題形式として、記述式の問題を一定割合で導入している。英語「話すこと」に関する問題の解答は、原則として口述式とする。

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

(2) 質問調査

児童生徒質問調査	学校質問調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問調査

4 調査実施日 令和8年4月23日（木）

※ 中学校英語「読むこと」「書くこと」「聞くこと」は令和8年4月20日（月）～4月23日（木）の実施期間のうち、各学校の希望を踏まえて文部科学省が指定する日で実施。

※ 中学校英語「話すこと」は、文部科学省が指定する中学校については、令和8年4月24日（金）～4月27日（月）のうち文部科学省が指定する日。上記以外の中学校は、令和8年4月28日（火）～5月29日（金）の実施期間のうち、指定された日程で実施。

5 4月23日（木）に調査を実施した学校・児童生徒数

	学校数（校）	児童生徒数（人）
小学校	17	524
中学校	12	591
合 計	29	1115

※ 上記期日以外に調査を実施した児童生徒は集計には含まれていない。

1 教科に関する調査

＜令和8年度調査 各教科の平均正答率（％）及び平均正答数（問）＞

		小学校		中学校		
		国語	算数	国語	数学	英語
平均正答率	小樽市	60	53	60	48	465
	北海道	60	54	63	55	490
	全 国	60.9	56.4	63.9	57.0	499
平均正答数	対象問題数	13	16	15	16	9
	小樽市	7.8	8.6	9.0	7.7	3.6
	北海道	7.8	8.6	9.5	8.8	4.2
	(北海道との差)	(0)	(0)	(-0.5)	(-1.1)	(-0.6)
	全 国	7.9	9.0	9.6	9.1	4.5
	(全国との差)	(-0.1)	(-0.4)	(-0.6)	(-1.4)	(-0.9)

※平成29年度から、小樽市及び北海道の平均正答率については文部科学省から整数値で結果が提供されていますので、整数値で結果を表示しています。

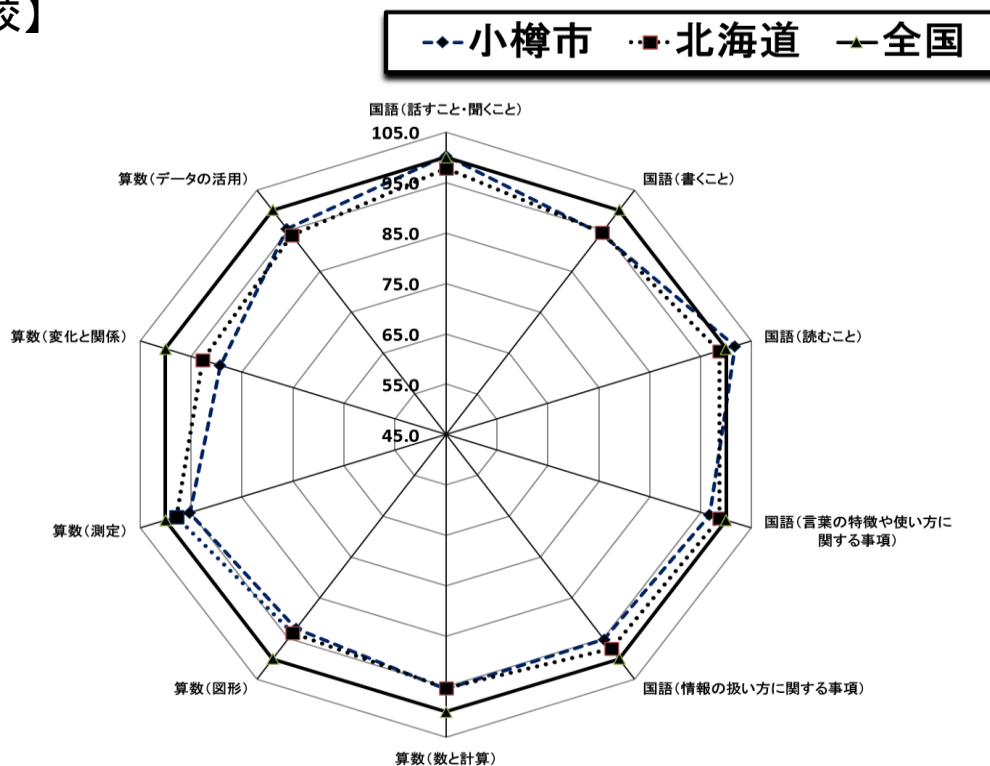
※中学校英語においてはIRTスコアを表示しています。なお、中学校英語の全国IRTスコアは、4技能について集計しております。

※本資料で取り扱われている「北海道」及び「全国」とは、全て公立小中学校のことを指します。

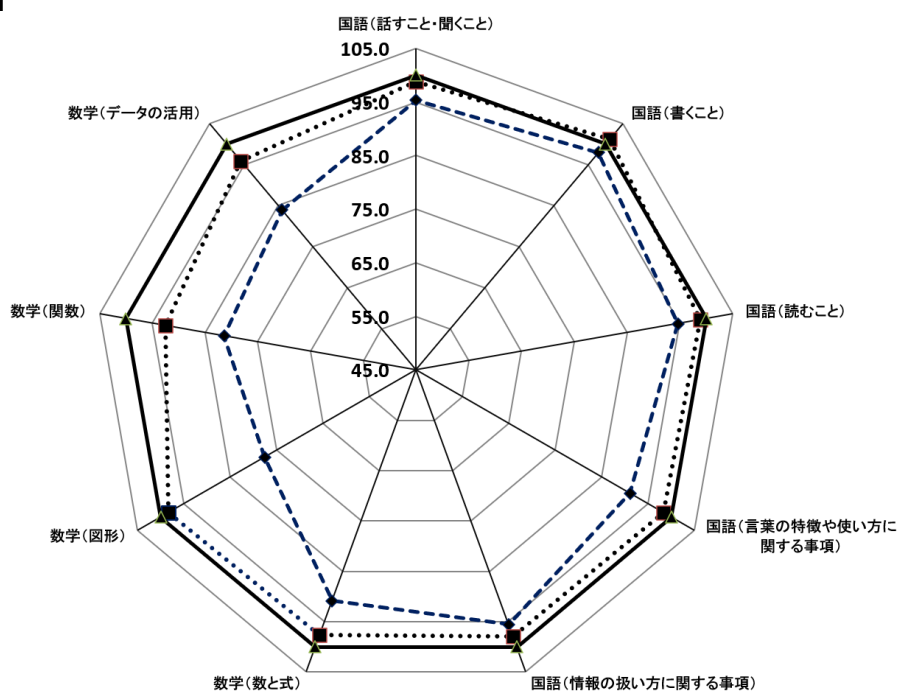
2 令和8年度全国学力・学習状況調査結果の各領域等の状況

※数値は、全国の平均正答率を100とした場合の観点別の達成の状況を表しており、「それぞれの平均正答率÷全国の平均正答率×100」で算出しております。
 ※中学校英語は、文部科学省から各領域等の状況に係る結果が提供されていません。

【小学校】

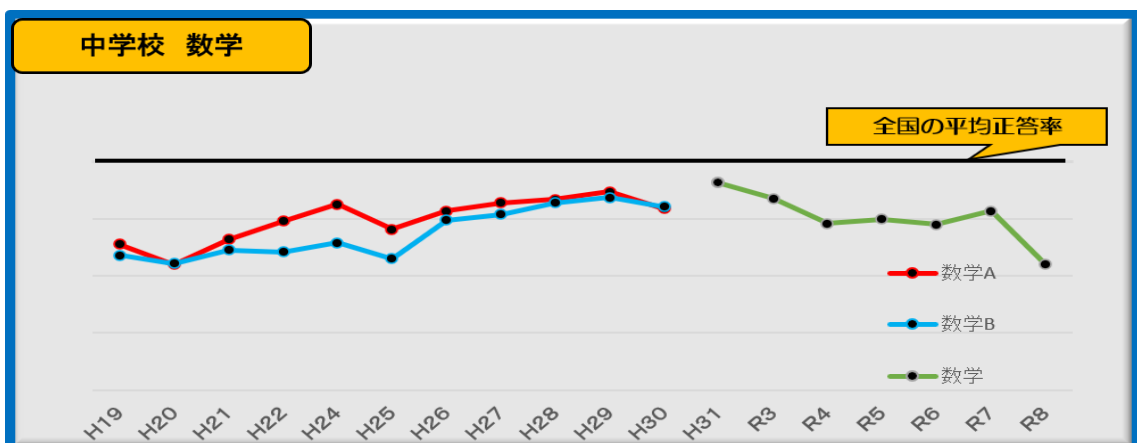
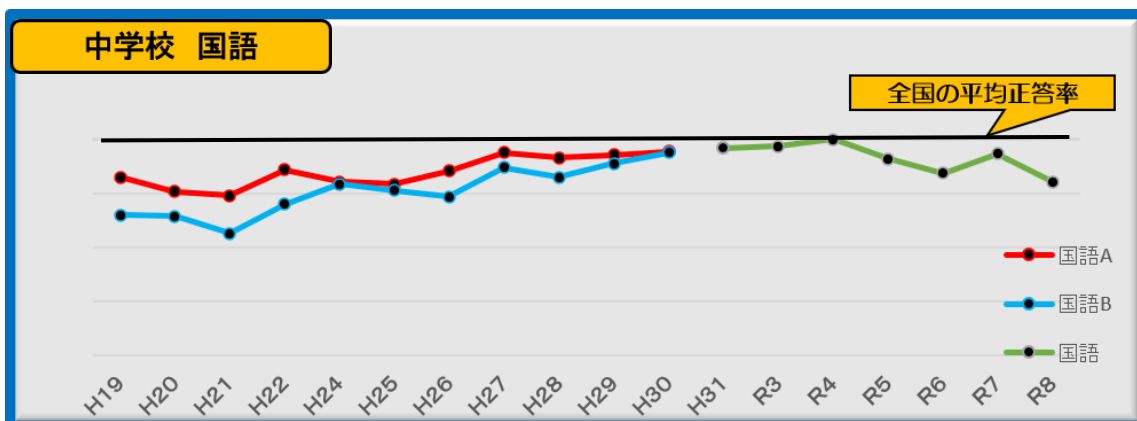
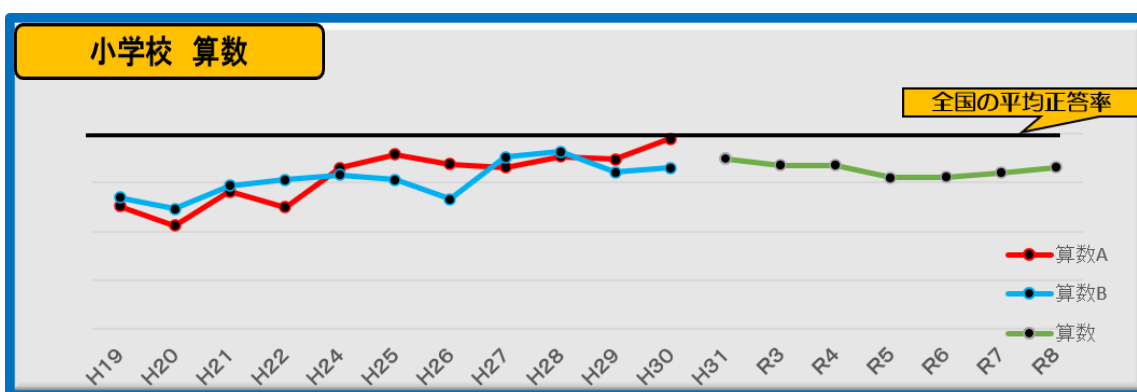
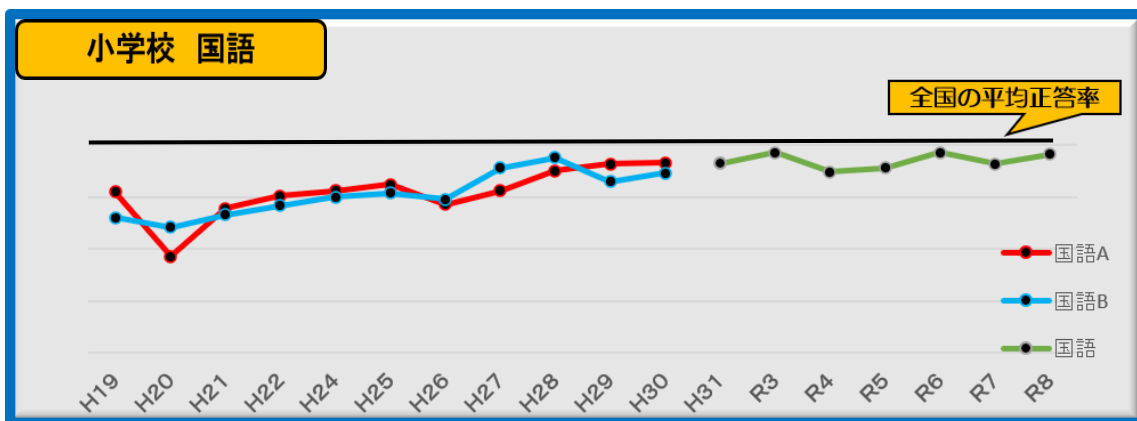


【中学校】



3 全国の平均正答率との差の推移

※全国平均正答率と小樽市の平均正答率との差を折れ線グラフで表しております。なお、平成31年度からは、AB問題の区別がなくなりました。



小学校国語

【平均正答率】

	児童数 (人)	平均正答数 (問)	平均正答率 (%)
小樽市	524	7.8 / 13	60
北海道	33,169	7.8 / 13	60
全国	922,411	7.9 / 13	60.9

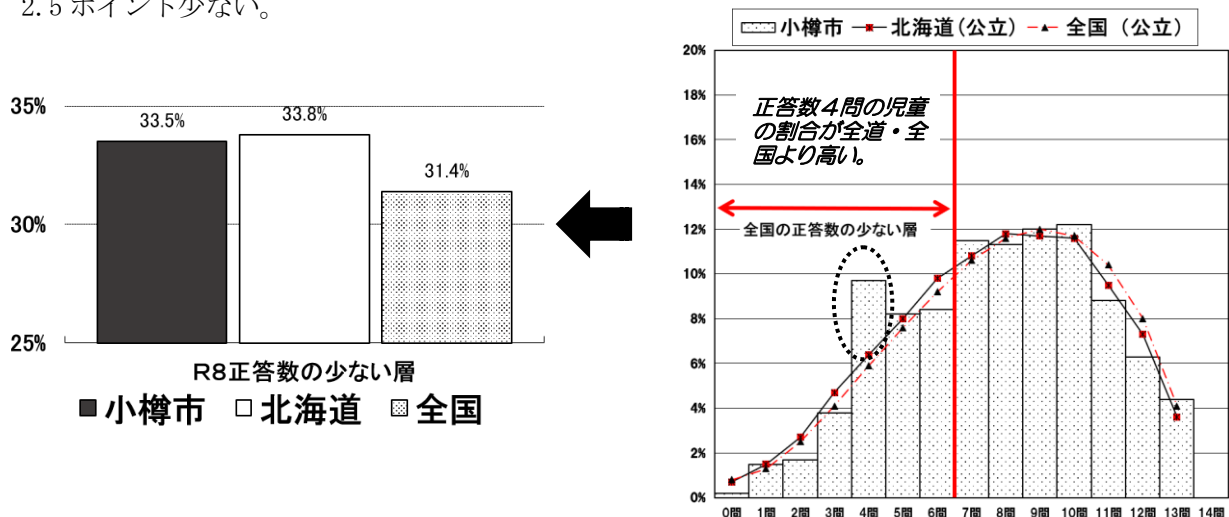
【分類・区分別集計結果】

分類		区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
				小樽市	北海道	全国
学習指導要領の内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	4	64.6	65.9	66.8
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	49.8	51.0	52.3
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	66.0	64.4	65.8
		B 書くこと	2	43.1	43.2	45.7
		C 読むこと	2	67.0	65.0	65.9

※□は、全国平均以上
下線は、全道平均以上

【「正答数分布状況」及び「全国の子どもの少ない層・多い層に含まれる児童の割合」】

正答数の少ない層（正答数6問以下）に含まれる児童の割合が33.5%で、全国と比べ2.1ポイント多い。また、正答数の多い層（正答数10問以上）に含まれる児童の割合は、31.4%で、全国と比べ、2.5ポイント少ない。



【問題別調査結果の概要】（◇正答率が高い問題 ◆正答率が低い等課題がみられる問題）

- ◇「【構成メモ】の工夫として適切なものを選択する」問題（第3学年及び第4学年「話すこと・聞くこと」）は、74.6%の正答率（全国は73.9%）です。[大問1一]
- ◇「【文章】の特徴として適切なものを選択する」問題（第5学年及び第6学年「言葉の特徴や使い方に関する事項」）は、78.1%の正答率（全国は76.7%）です。[大問3一]
- ◇「【文章】を読んで考えたことを、自分の経験と結び付けてまとめて書く」問題（第5学年及び第6学年「読むこと」）は、78.2%の正答率（全国は76.4%）です。[大問3三（2）]
- ◆「【登場人物の文章の一部】の下線部イを、漢字を使って書き直す（ふしぎ）」問題（第5学年及び第6学年「言葉の特徴や使い方に関する事項」）は、40.6%の正答率（全国は45.2%）です。[大問2三イ]
- ◆「【登場人物の文章の続き】の空欄に入る内容を、【集めた情報】から抜き出して考えが伝わるように書く」問題（第5学年及び第6学年「書くこと」）は、29.8%の正答率（全国は33.5%）です。[大問2四]
- ◆「傍線部①、②、③について、【登場人物のメモ】にどのように整理したのかを説明したものとして適切なものを選択する」問題（第5学年及び第6学年「情報の扱いに関する事項」）は、52.1%の正答率（全国は55.6%）です。[大問3二]

国語における課題

- ・ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと。
- ・ 引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。
- ・ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして情報を整理すること。

小学校算数

【平均正答率】

	児童数 (人)	平均正答数 (問)	平均正答率 (%)
小樽市	524	8.6 / 16	53
北海道	33,171	8.6 / 16	54
全国	922,778	9.0 / 16	56.4

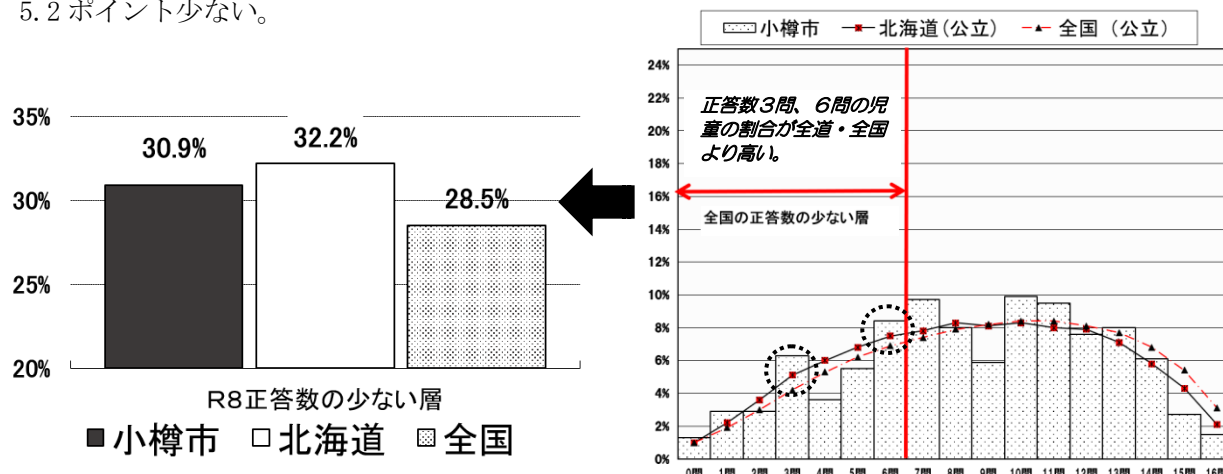
【分類・区分別集計結果】

※下線は、全道平均以上

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
			小樽市	北海道	全国
学習指導要領の領域	A 数と計算	8	<u>58.3</u>	58.2	61.1
	B 図形	4	51.2	51.8	55.3
	C 測定	1	74.4	76.4	78.1
	C 変化と関係	3	36.7	38.1	41.1
	D データの活用	4	<u>46.4</u>	45.6	48.6

【「正答数分布状況」及び「全国の正答数の少ない層・多い層に含まれる児童の割合」】

正答数の少ない層（正答数 6 問以下）に含まれる児童の割合が 30.9%で、全国と比べ 2.4 ポイント多い。また、正答数の多い層（正答数 12 問以上）に含まれる児童の割合は 25.9%で、全国と比べ、5.2 ポイント少ない。



【問題別調査結果の概要】(◇正答率が高い問題 ◆正答率が低い等課題がみられる問題)

- ◇「直方体の箱の形の六つの面のうち、四つの面が示されたとき、残りの二つの面の縦と横の長さを書く」問題（第 2 学年・第 4 学年「図形」）は、63.7%の正答率（全国は 63.0%）です。[大問 1（2）]
- ◇「1、5、9 の 3 枚のカードを当てはめてつくることができる最も大きい数を書く」問題（第 4 学年「数と計算」）は、94.5%の正答率（全国は 94.5%）です。[大問 3（1）]
- ◇「 $5 \div 3$ を表す目盛りが示された数直線上で、1 を表す目盛りを選ぶ」問題（第 3 学年「数と計算」）は、70.4%の正答率（全国は 68.1%）です。[大問 3（4）]
- ◆「一辺が 8 cm の立方体の体積を求める式を書く」問題（第 5 学年「図形」）は、61.6%の正答率（全国は 72.7%）です。[大問 1（1）]
- ◆「イシガメ 14 匹が動物園全体のカメの数の 20%に当たるときの、動物園全体のカメの数を求める式と答えを書く」問題（第 5 学年「変化と関係」）は、46.8%の正答率（全国は 53.1%）です。[大問 2（2）]
- ◆「赤いテープの長さが、白いテープの長さの 1.5 倍になっている図を二つ選ぶ」問題（第 4 学年「数と計算」、第 5 学年「変化と関数」）は、27.5%の正答率（全国は 34.2%）です。[大問 2（4）]

算数における課題

- ・立方体の体積の計算による求め方を理解すること。
- ・百分率で表された割合と比較量から基準量を求めること。
- ・基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を理解すること。

中学校国語

【平均正答率】

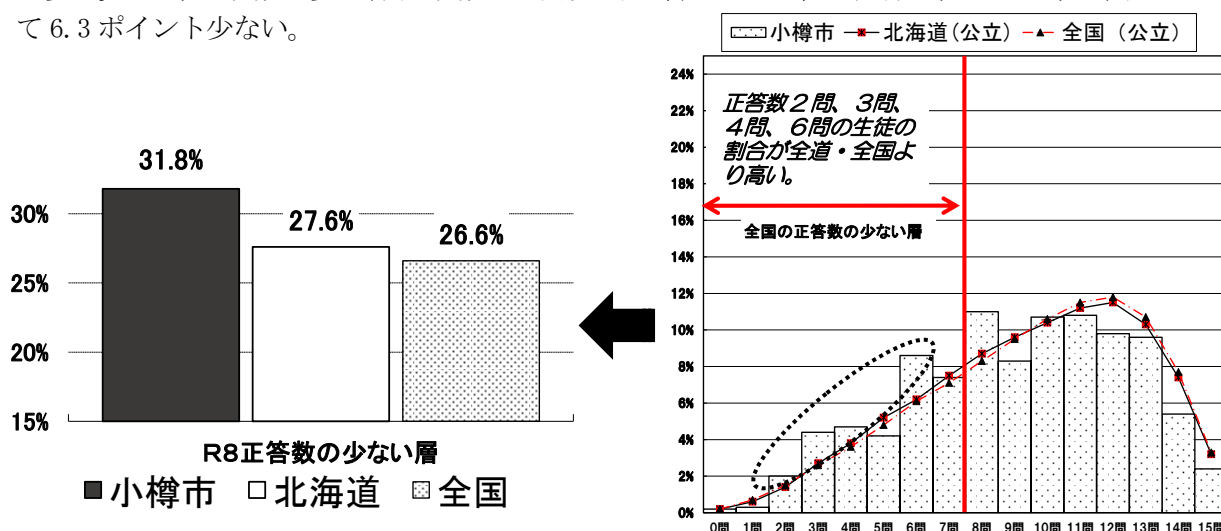
	生徒数 (人)	平均正答数 (問)	平均正答率(%)
小樽市	591	9.0 / 15	60
北海道	32,596	9.5 / 15	63
全国	841,873	9.6 / 15	63.9

【分類・区分別集計結果】

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)			
			小樽市	北海道(公立)	全国(公立)	
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	5	57.4	61.9	63.0
		(2) 情報の扱い方に関する事項	1	67.3	69.0	70.4
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	60.9	63.1	63.9
		B 書くこと	3	66.0	68.2	67.4
		C 読むこと	3	56.5	59.0	59.7

【「正答数分布状況」及び「全国の正答数の少ない層・多い層に含まれる生徒の割合」】

正答数の少ない層（正答数7問以下）に含まれる生徒の割合が31.8%で、全国と比べ5.2ポイント多い。また、正答数の多い層（正答数12問以上）に含まれる生徒の割合は、27.2%で、全国と比べて6.3ポイント少ない。



【問題別調査結果の概要】（◇正答率が高い問題 ◆正答率が低い等課題がみられる問題）

- ◇『『可能の意味』を含んでいるものとして適切なものを選択する』問題（第2学年「言葉の特徴や使い方に関する事項」）は、78.5%の正答率（全国は84.3%）です。[大問1一]
- ◇『『ら抜き言葉』であるものを選択する』問題（第2学年「言葉の特徴や使い方に関する事項」）は、80.4%の正答率（全国は85.4%）です。[大問1三]
- ◇「気持ちがより伝わるように、表現を工夫して書く」問題（第2学年「書くこと」）は、92.0%の正答率（全国は92.3%）です。[大問3二]
- ◆「「投げられる」を説明したものとして適切なものを選択する」問題（第1学年「言葉の特徴や使い方に関する事項」）は、61.9%の正答率（全国は70.2%）です。[大問1二]
- ◆「文章作成ソフトに表示された意味と用例を参考にして、漢字を書き、漢字の組み合わせとして適切なものを選択する（とる）」問題（第2学年「言葉の特徴や使い方に関する事項」）は、29.8%の正答率（全国は39.8%）です。[大問3一]
- ◆「文章中に書かれている、会話の表情を表す擬音語・擬態語の特徴をまとめたものとして適切なものを選択する」問題（第1学年「読むこと」）は、61.9%の正答率（全国は68.7%）です。[大問4三]

国語における課題

- ・単語の類別について理解すること。
- ・文脈に即して正しく漢字を書き、語句を文章の中で使うこと。
- ・目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈すること。

中学校数学

【平均正答率】

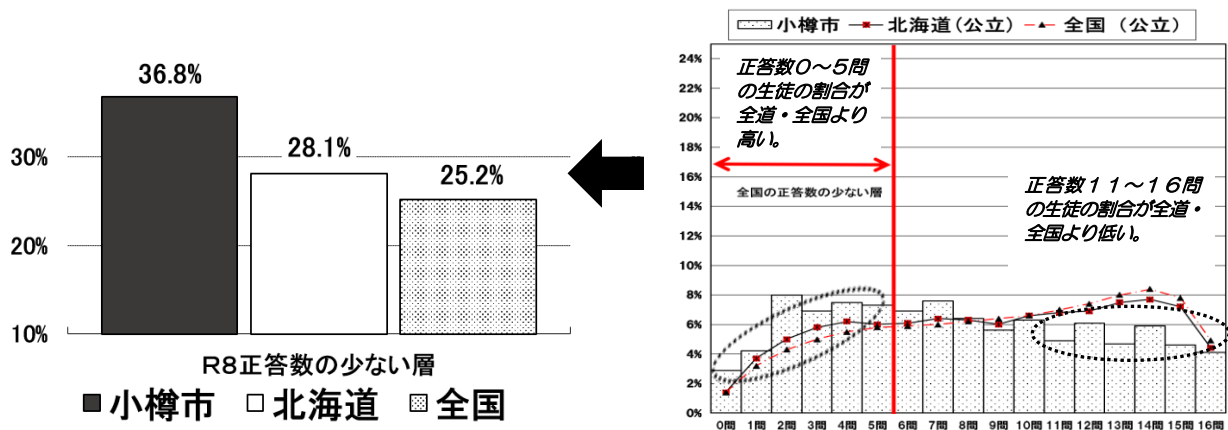
	生徒数 (人)	平均正答数 (問)	平均正答率 (%)
小樽市	590	7.7 / 16	48
北海道	32,580	8.8 / 16	55
全国	842,491	9.1 / 16	57.0

【分類・区分別集計結果】

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
			小樽市	北海道	全国
学習指導要領の領域	A 数と式	5	61.6	66.2	67.8
	B 図形	4	37.8	47.9	48.7
	C 関数	3	44.6	50.7	54.8
	D データの活用	4	44.9	51.3	53.5

【「正答数分布状況」及び「全国の前答数の少ない層・多い層に含まれる生徒の割合】

正答数の少ない層（正答数5問以下）に含まれる生徒の割合が36.8%で、全国と比べ11.6ポイント多い。また、正答数の多い層（正答数13問以上）に含まれる生徒の割合は、19.3%で、全国と比べ、9.8ポイント少ない。



【問題別調査結果の概要】（◇正答率が高い問題 ◆正答率が低い等課題がみられる問題）

- ◇「2月3日のA市の最高気温が最低気温より何℃高くなったかを書く」問題（第1学年「数と式」）は、80.3%の正答率（全国は85.7%）です。[大問1]
- ◆「反比例の表において、 x の値が-3のときの y の値を求める」問題（第1学年「関数」）は、43.9%の正答率（全国は55.3%）です。[大問4]
- ◆「データ量が1000MBになるときの動画の時間がおおよそ何秒になるかを求める方法を説明する」問題（第1学年「関数」）は、25.9%の正答率（全国は33.9%）です。[大問7（2）]
- ◆「図1において、 $AB=AP$ 、 $OB=OP$ ならば $\angle AOB=\angle AOP$ であることを、三角形の合同を基にして証明する」問題（第2学年「図形」）は、29.3%の正答率（全国は46.1%）です。[大問8（2）]
- ◆「図2において、証明する事柄における仮定となる辺や角の関係を選ぶ」問題（第2学年「図形」）は、29.2%の正答率（全国は37.1%）です。[大問8（3）]

数学における課題

- ・ 反比例の関係を表す表の特徴を捉えて、 x の値に対応する y の値を求めること。
- ・ 数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること。
- ・ 筋道を立てて考え証明することや、具体的な事象を基に、証明する事柄の仮定を見いだすこと。

中学校英語

※全国の英語は、統計的に抽出され、英語４技能を当日に実施した学校の生徒の結果を集計したもの。

【平均正答数集計値】

	生徒数 (人)	平均正答数 (問)
小樽市	555	3.6 / 9
北海道	31,033	4.2 / 9
全国	46,645	4.5 / 9

【IRT スコア集計値】

	平均 IRTスコア	パーセンタイル値				
		10%	25%	50%	75%	90%
小樽市 (4 技能)	465	341	386	454	537	608
北海道 (4 技能)	490	361	413	484	562	626
全国 (4 技能)	499	363	422	498	575	636

【技能別平均正答数集計値】

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答数 (問)		
			小樽市	北海道	全国
学習指導要領の領域	(1) 聞くこと	2	1.0 / 2	1.2 / 2	1.2 / 2
	(2) 読むこと・書くこと	5	2.0 / 5	2.4 / 5	2.6 / 5
	(3) 話すこと [やり取り・発表]	2	0.5 / 2	0.6 / 2	0.7 / 2

【問題別調査結果の概要】(公開問題において◇正答率が高い問題 ◆正答率が低い等課題がみられる問題)

- ◇「文章を読み、グラフの空所に入る学校行事を選択する」問題(「読むこと」)は、61.9%の正答率(全国は67.3%)です。[大問6]
- ◇「注文の場面での店員と客の会話を聞き、客が注文したものを選択する」問題(「聞くこと」)は、54.0%の正答率(全国は60.2%)です。[大問1]
- ◆「インターネットの使用に関する文章を読み、書き手が最も伝えたいことを選択する」問題(「読むこと」)は、35.9%の正答率(全国は47.5%)です。[大問10(1)]
- ◆「与えられた情報に基づいて、留学生の昨日の出来事を説明する英文を書く」問題(「書くこと」)は、40.4%の正答率(全国は58.9%)です。[大問11①]
- ◆「与えられた情報に基づいて、留学生の昨日の出来事を説明する英文を書く」問題(「書くこと」)は、38.4%の正答率(全国は52.7%)です。[大問11②]
- ◆「電話でのやり取りの中で、遊ぶ約束をしている留学生に明日の天気を伝える」問題(「話すこと [やり取り]」)は、31.2%の正答率(全国は42.3%)です。[大問15(1)]

英語における課題

- ・社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くこと。
- ・音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、活用できる技能を身に付けること。

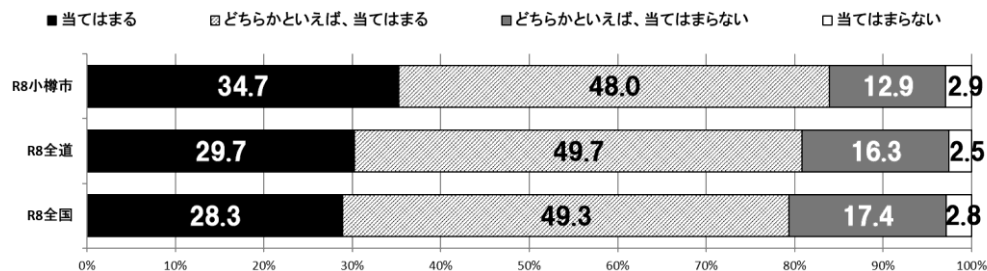
Ⅲ 児童生徒質問調査結果の概要

児童生徒質問調査は、学習意欲、学習方法、生活面などに関する調査であり、主なものを掲載しています。

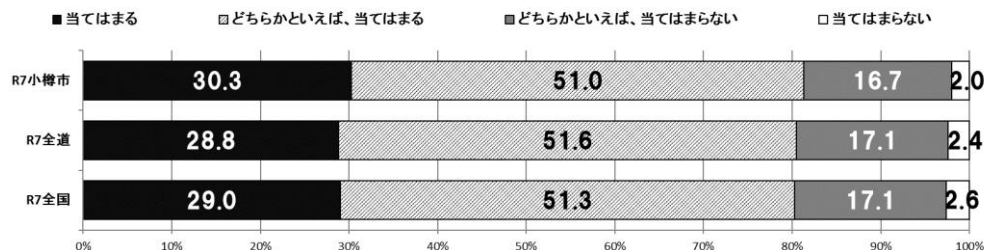
1 5年生まで（中学校は1、2年生まで）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

※「その他」「無回答」の数値は記載しておりません。

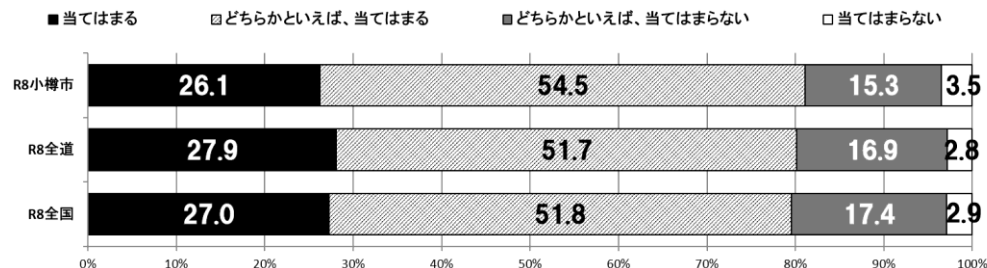
【小学校】＜令和8年度＞



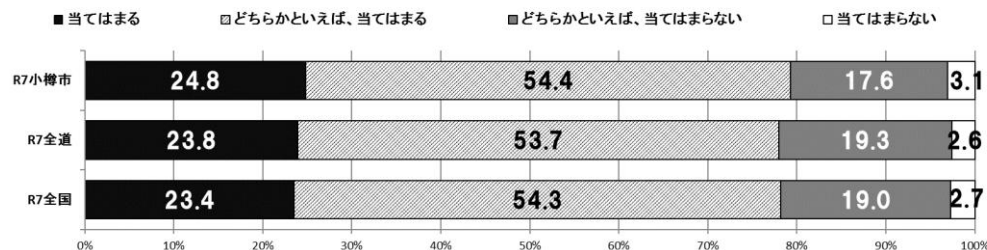
【小学校】＜令和7年度＞



【中学校】＜令和8年度＞



【中学校】＜令和7年度＞

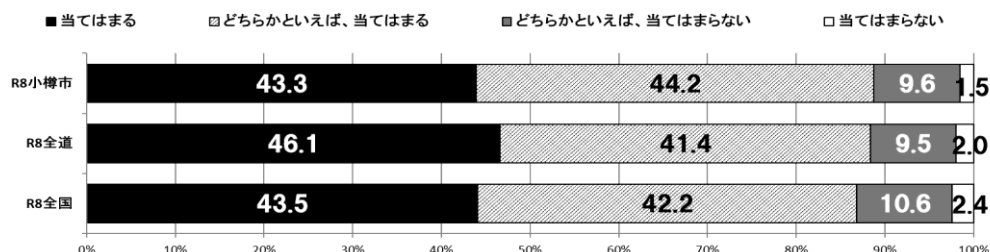


- ・ 小学校は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合が82.7%で、全国（77.6%）と比べ、5.1ポイント高くなっています。中学校は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合が80.6%であり、全国（78.8%）と比べ、1.8ポイント高くなっています。
- ・ 課題設定や発問の工夫などを通して、児童生徒自身が見通しをもって課題解決に取り組む授業づくりが進められていることがうかがえます。

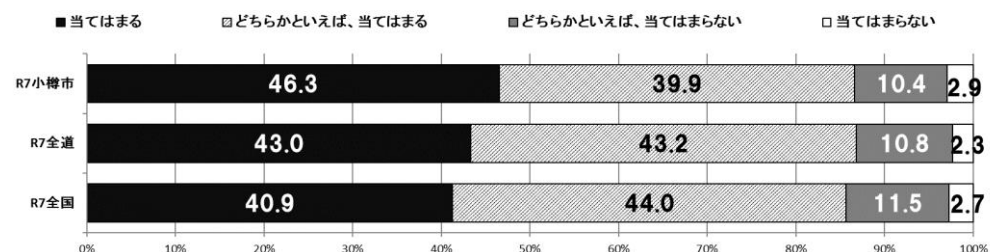
2 学級の友達との（中学校は生徒の）間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。

※「活動を行っていない」「その他」「無回答」の数値は記載しておりません。

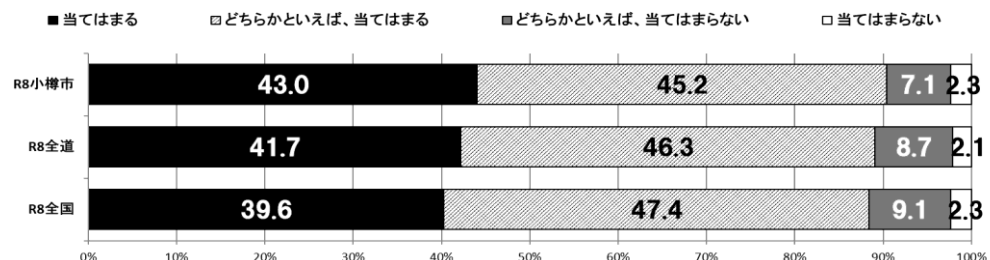
【小学校】＜令和8年度＞



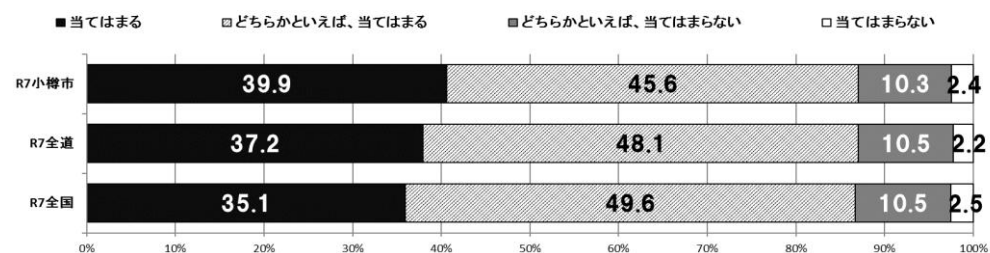
【小学校】＜令和7年度＞



【中学校】＜令和8年度＞



【中学校】＜令和7年度＞

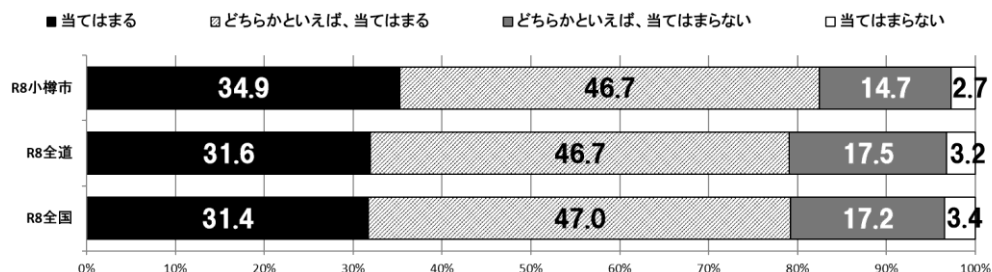


- ・ 小学校は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合が、87.5%で、全国（85.7%）と比べ、1.8ポイント高くなっています。中学校は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合が88.2%であり、全国（87.0%）と比べ、1.2ポイント高くなっています。
- ・ 課題解決の場面において対話を通じて考えを深める活動を取り入れるなど、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善が進められていることがうかがえます。

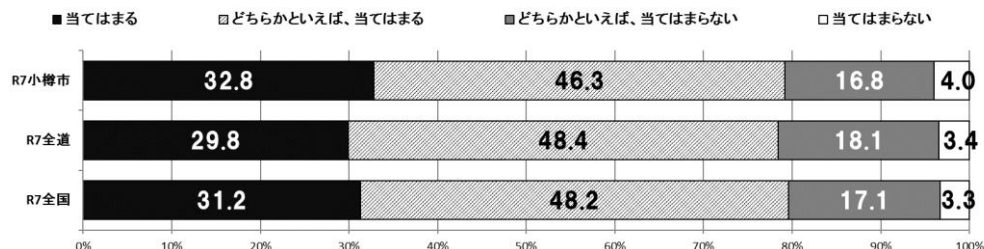
3 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。

※「その他」「無回答」の数値は記載しておりません。

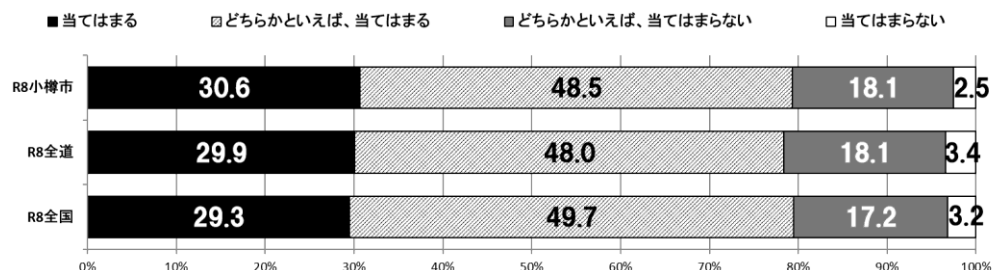
【小学校】＜令和8年度＞



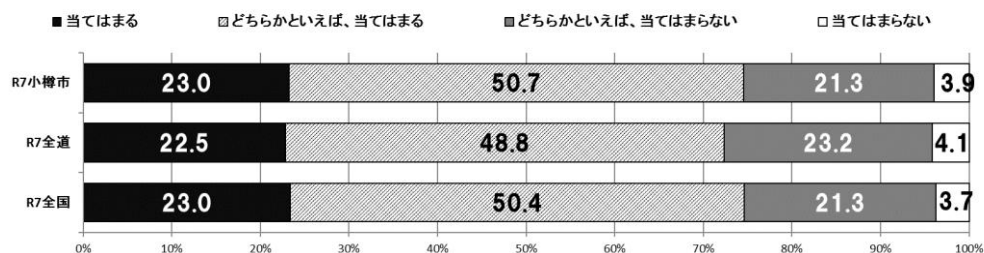
【小学校】＜令和7年度＞



【中学校】＜令和8年度＞



【中学校】＜令和7年度＞

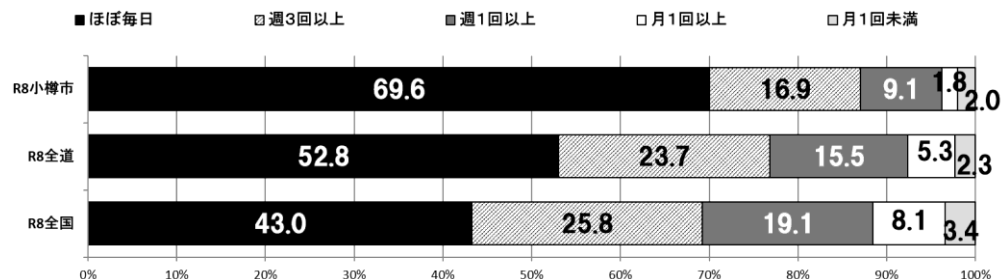


- ・ 小学校は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合が、81.6%で、全国（78.4%）と比べ、3.2ポイント高くなっています。中学校は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合が79.1%であり、全国（79.0%）と比べ、0.1ポイント高くなっています。
- ・ 授業の終末場面において、学んだことを振り返る場面を設定するなど、児童生徒自身に自らの学習の状況を認識させたことがうかがえます。

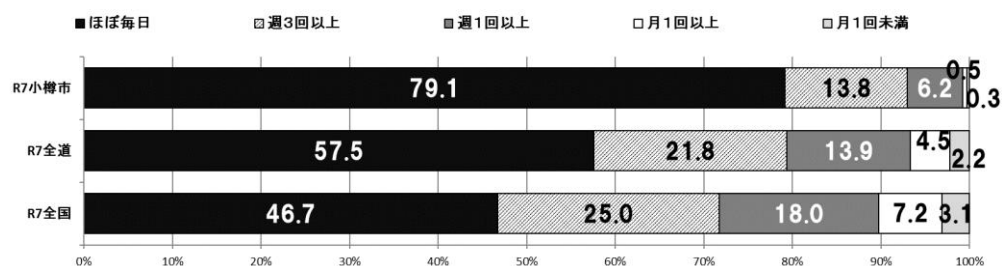
4 5年生までに（中学校は「1、2年生のときに」）受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。

※「その他」「無回答」の数値は記載しておりません。

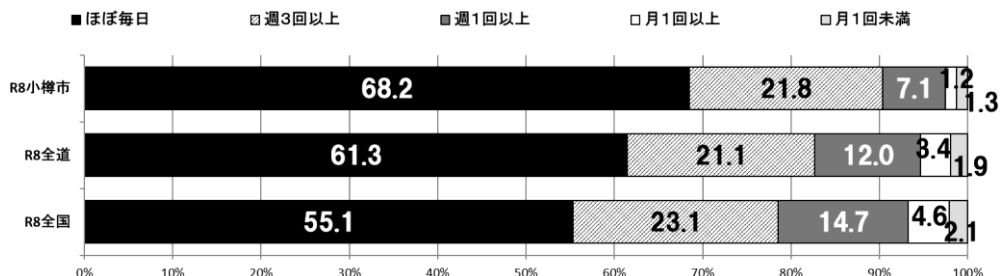
【小学校】＜令和8年度＞



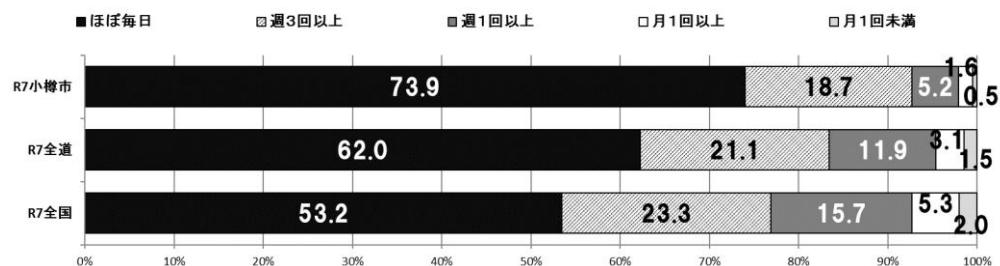
【小学校】＜令和7年度＞



【中学校】＜令和8年度＞



【中学校】＜令和7年度＞

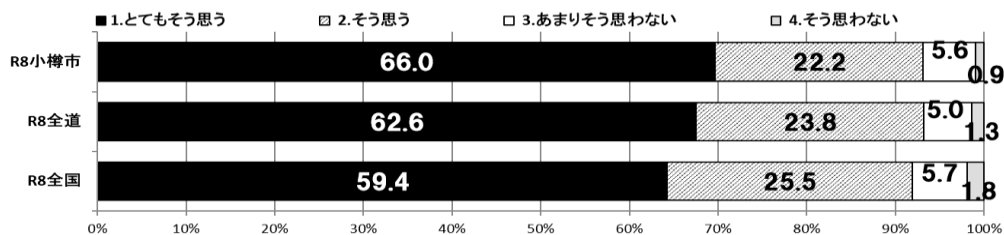


- ・ 小学校は、「ほぼ毎日」の割合が 69.6%で、全国（43.0%）と比べ、26.6 ポイント高くなっています。中学校は、「ほぼ毎日」の割合が 68.2%で、全国（55.1%）と比べ、13.1 ポイント高くなっています。
- ・ 各学校では、活用促進に向けた校内研修などに取り組み、授業における1人1台端末の活用が進んでいることがうかがえます。

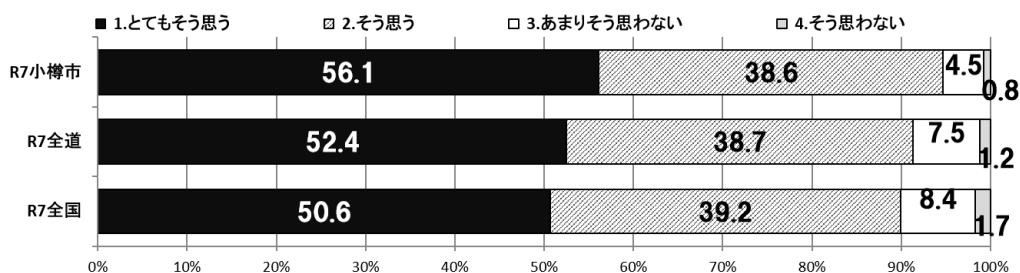
5-1 あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができますか。

※「その他」「無回答」の数値は記載していません。

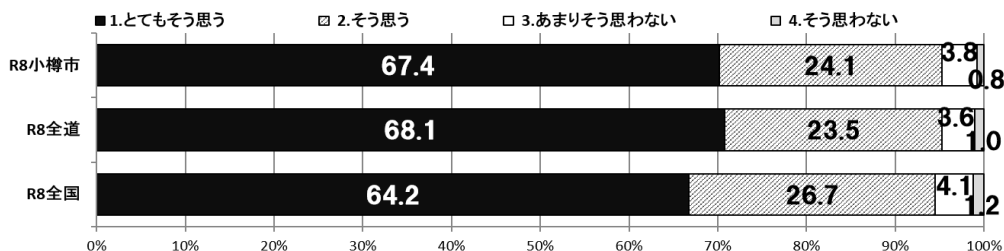
【小学校】＜令和8年度＞



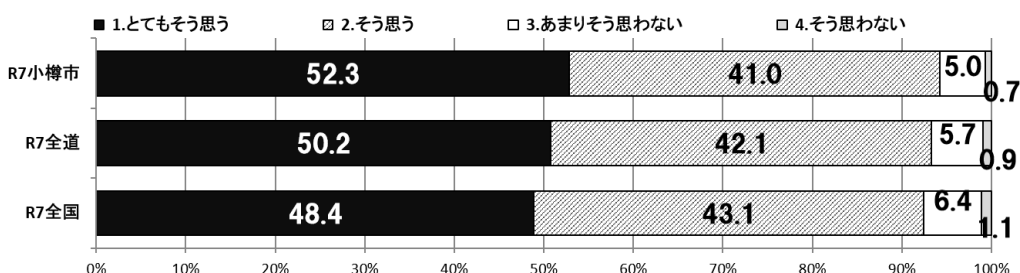
【小学校】＜令和7年度＞



【中学校】＜令和8年度＞



【中学校】＜令和7年度＞

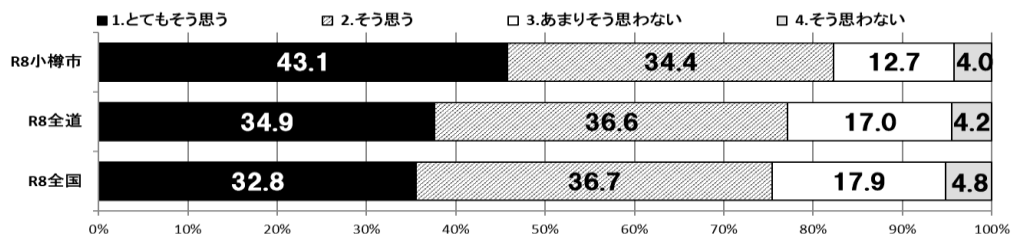


・小学校は、「とても思う」「そう思う」の割合が、88.2%で、全国（84.9%）と比べ、3.3ポイント高くなっており、中学校は91.5%であり、全国（90.9%）と比べ、0.6ポイント高くなっています。小中学校ともに全国を上回っており、1人1台端末を効果的に活用した授業改善がすすめられていることが伺えます。

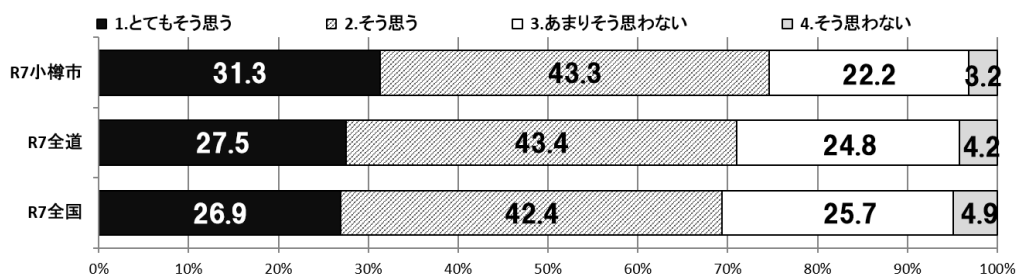
５－２ あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか。

※「その他」「無回答」の数値は記載しておりません。

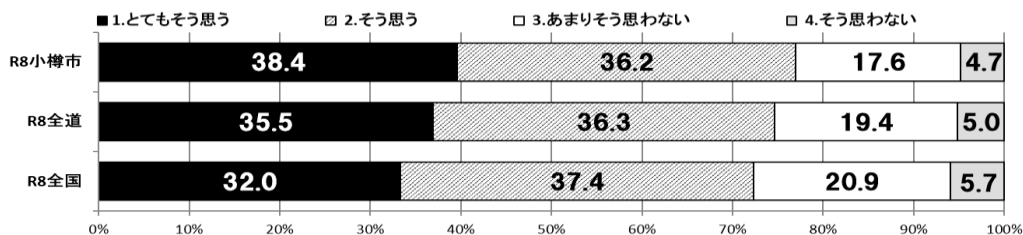
【小学校】＜令和８年度＞



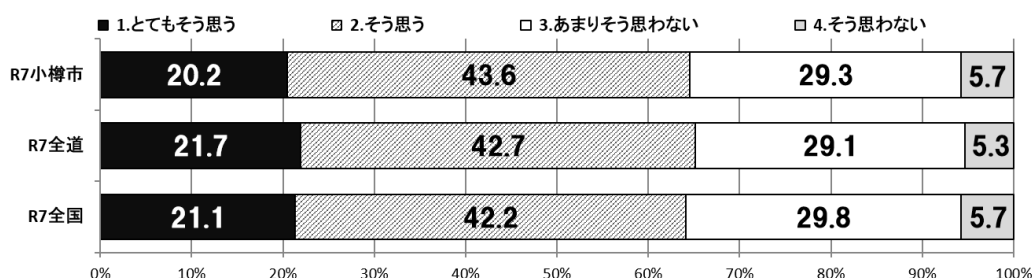
【小学校】＜令和７年度＞



【中学校】＜令和８年度＞



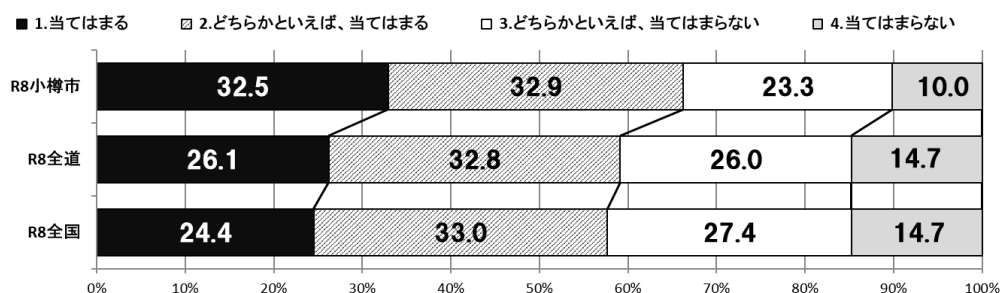
【中学校】＜令和７年度＞



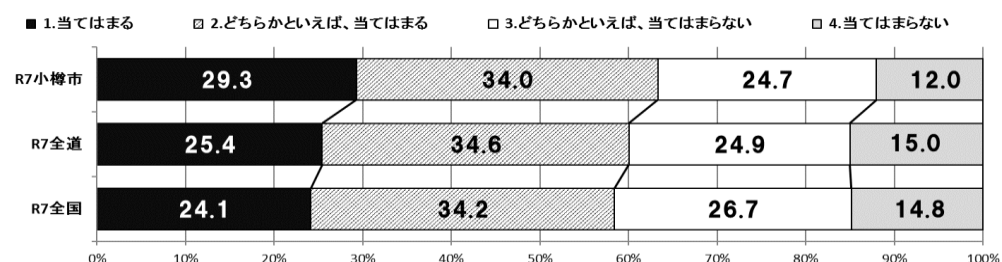
・ 小学校は、「とてもそう思う」「そう思う」の割合が、77.5%で、全国（69.5%）と比べ、8.0ポイント高くなっており、中学校は74.6%であり、全国（69.4%）と比べ、5.2ポイント高くなっています。小中学校ともに全国を上回っており、情報を整理することは探究的な学びにおいて重要な学習過程であることから、今後も１人１台端末を効果的に活用し授業改善に努める必要があります。

6-1 国語の勉強は好きですか。 ※「その他」「無回答」の数値は記載しておりません。

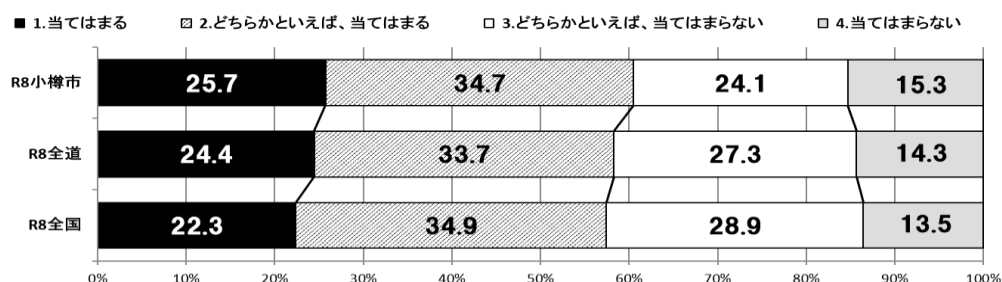
【小学校】＜令和8年度＞



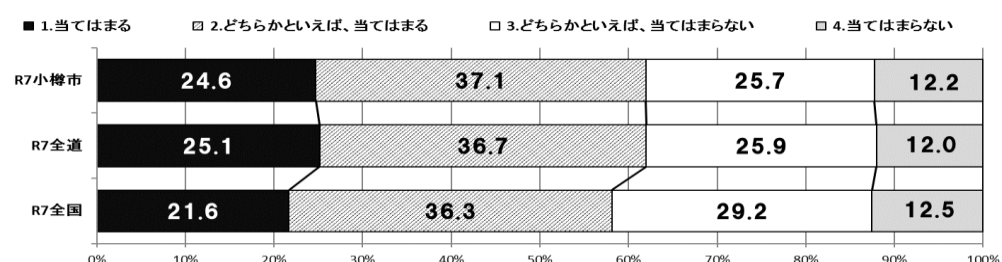
【小学校】＜令和7年度＞



【中学校】＜令和8年度＞



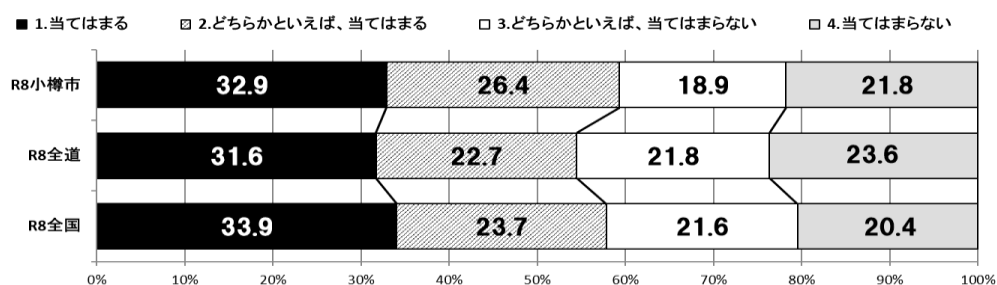
【中学校】＜令和7年度＞



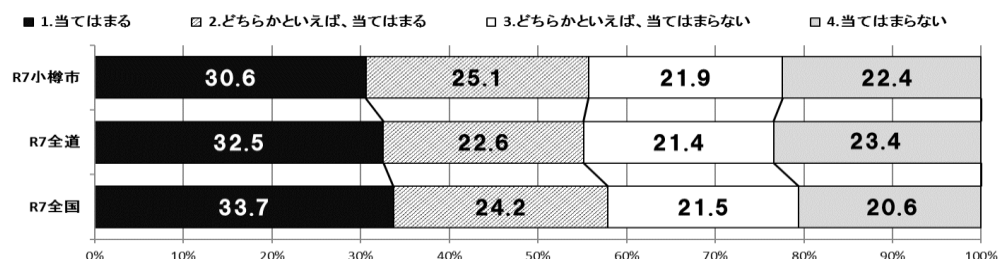
- ・小学校は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合が、65.4%で、全国（57.4%）と比べ、8.0ポイント高くなっています。中学校は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合が60.4%であり、全国（57.2%）と比べ、3.2ポイント高くなっています。
- ・多くの児童生徒が「国語の勉強が好き」と回答していることから、引き続き「わかる」「できる」授業の実現に向けて授業改善を進めていくことが大切です。

6-2 算数・数学の勉強は好きですか。 ※「その他」「無回答」の数値は記載しておりません。

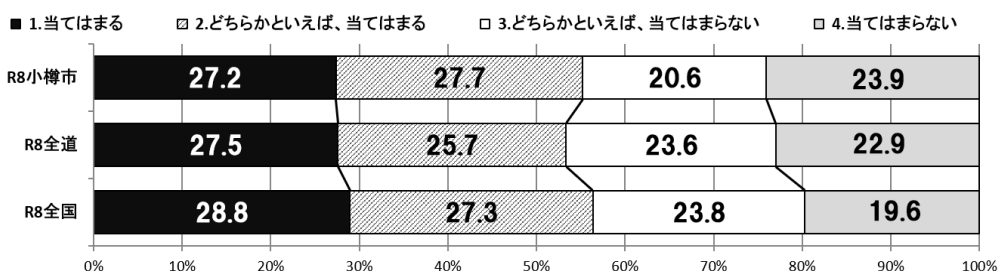
【小学校】＜令和8年度＞



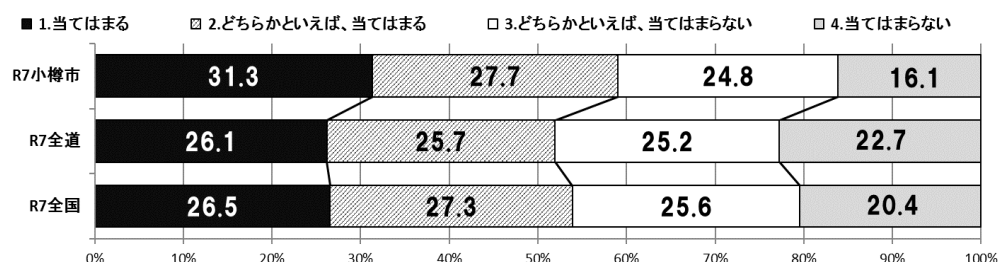
【小学校】＜令和7年度＞



【中学校】＜令和8年度＞



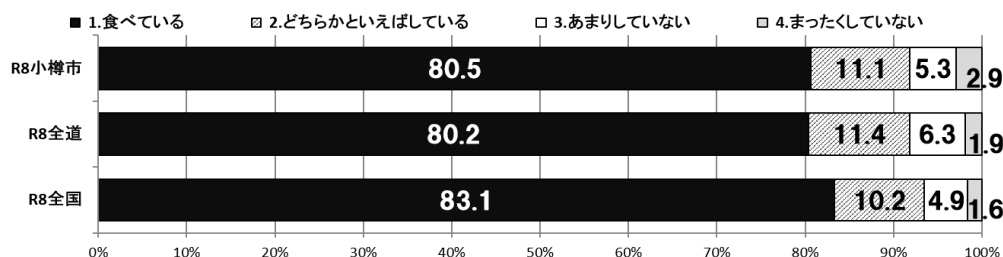
【中学校】＜令和7年度＞



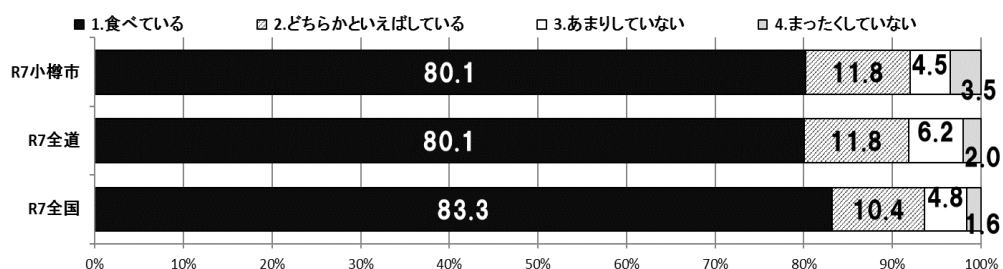
- ・小学校は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合が、59.3%で、全国（57.6%）と比べ、1.7ポイント高くなっています。中学校は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合が54.9%であり、全国（56.1%）と比べ、1.2ポイント低くなっています。
- ・「算数・数学の勉強が好き」と回答する児童生徒がより多くなるために、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を一層進める必要があります。

7 朝食を毎日食べていますか。 ※「その他」「無回答」の数値は記載しておりません。

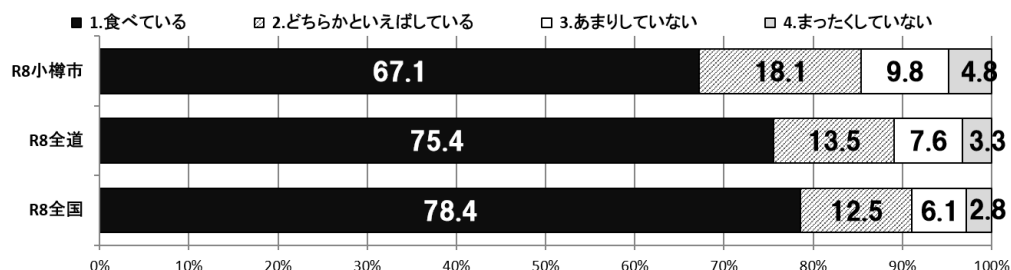
【小学校】＜令和8年度＞



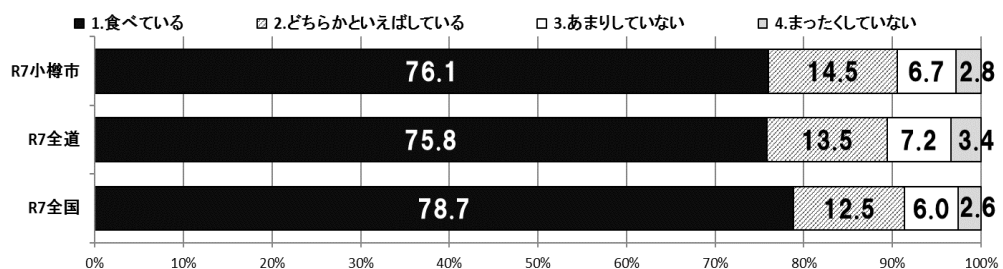
【小学校】＜令和7年度＞



【中学校】＜令和8年度＞



【中学校】＜令和7年度＞

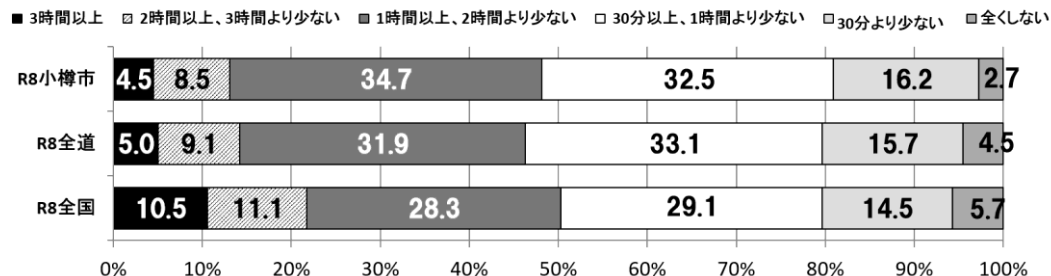


- ・ 小学校は「食べている」割合が80.5%で全国（83.1%）と比べ2.6ポイント低くなっています。中学校は「食べている」割合が67.1%で全国（78.4%）と比べ11.3ポイント低くなっています。
- ・ 毎日を元気に過ごすためには、早寝早起きや、朝食を食べることが大切であることから、引き続き家庭との連携を強化し、望ましい生活習慣を確立していく必要があります。

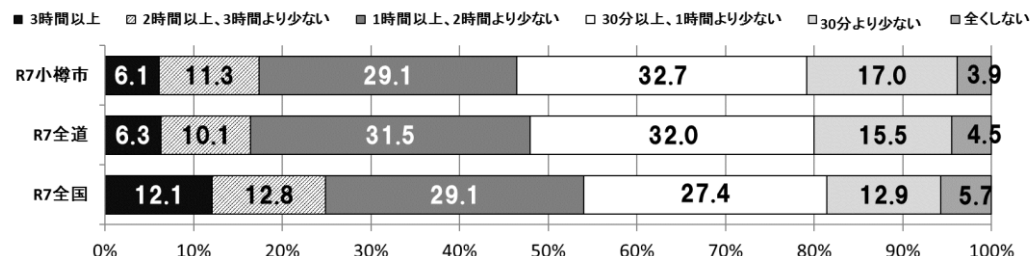
8 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。

※「その他」「無回答」の数値は記載しておりません。

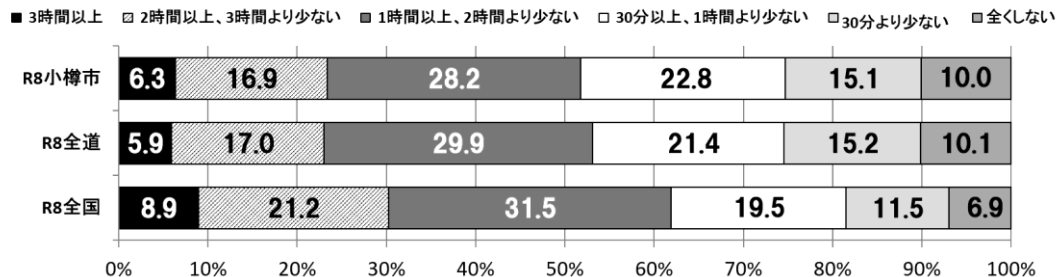
【小学校】＜令和8年度＞



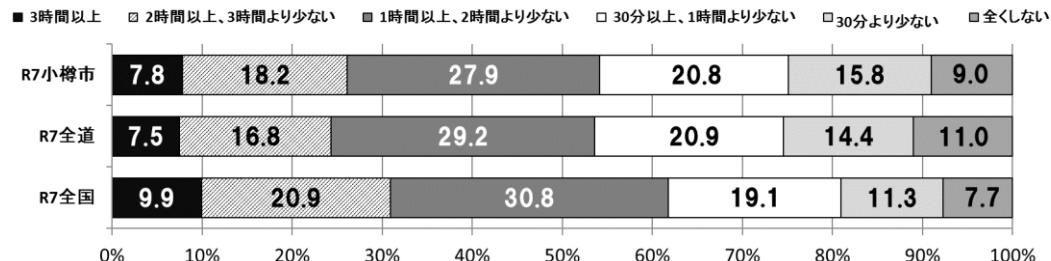
【小学校】＜令和7年度＞



【中学校】＜令和8年度＞



【中学校】＜令和7年度＞

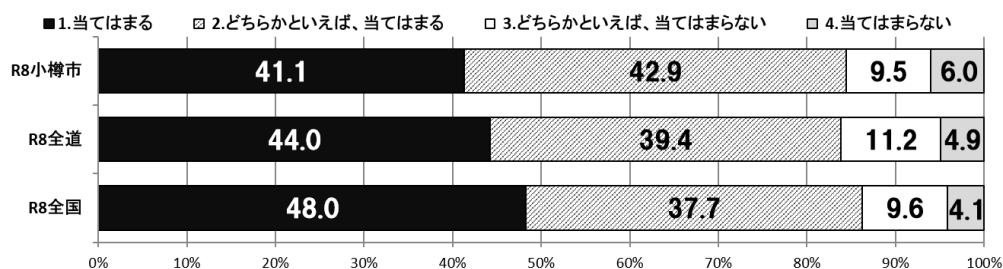


- ・ 小学校で「1日に1時間以上勉強する」割合は47.7%で、全国（49.9%）と比べ、2.2ポイント低く、中学校で「1日に2時間以上勉強する」割合は23.2%で、全国（30.1%）と比べ、6.9ポイント低くなっています。
- ・ 小・中ともに全国を下回っており、学校と家庭が協力した取組を進める必要があります。

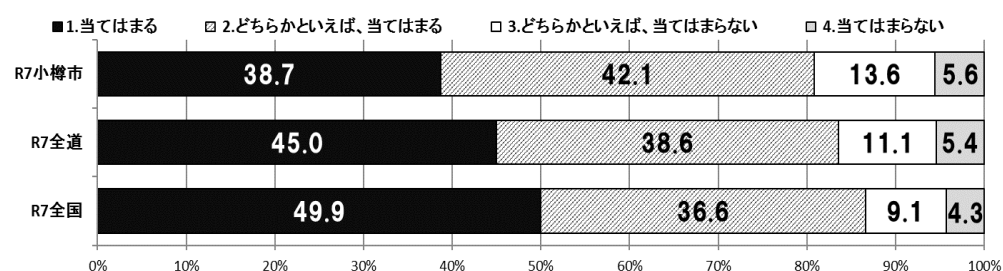
9 学校に行くのは楽しいと思いますか。

※「その他」「無回答」の数値は記載しておりません。

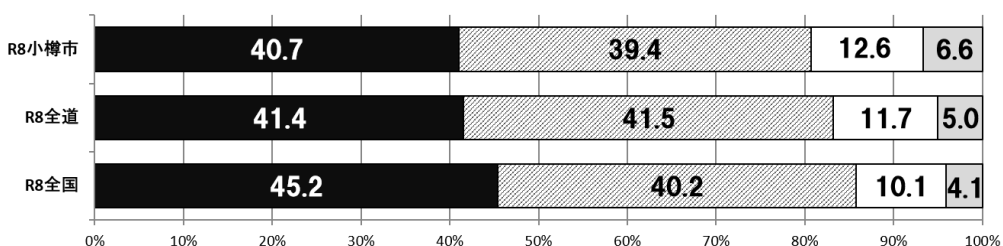
【小学校】＜令和8年度＞



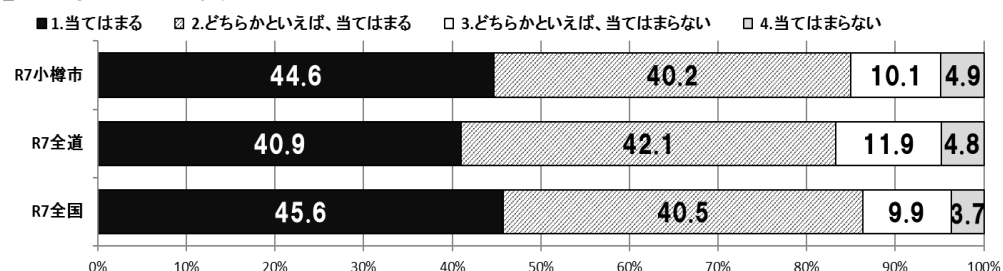
【小学校】＜令和7年度＞



【中学校】＜令和8年度＞



【中学校】＜令和7年度＞

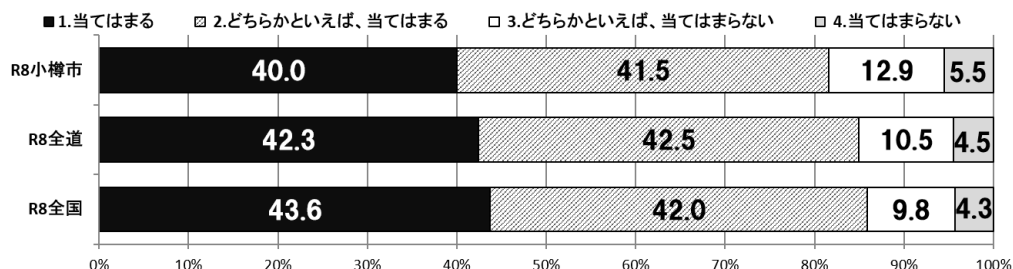


- ・ 小学校は、「当てはまる・どちらかといえば、当てはまる」の割合が、84.0%であり、全国（85.7%）と比べ、1.7ポイント低くなっています。中学校は80.1%であり、全国（85.4%）と比べ、5.3ポイント低くなっています。
- ・ 児童生徒が安心して学べる学級づくりに努めるとともに、一人一人が大切に見守られていると実感できる環境づくりに努める必要があります。

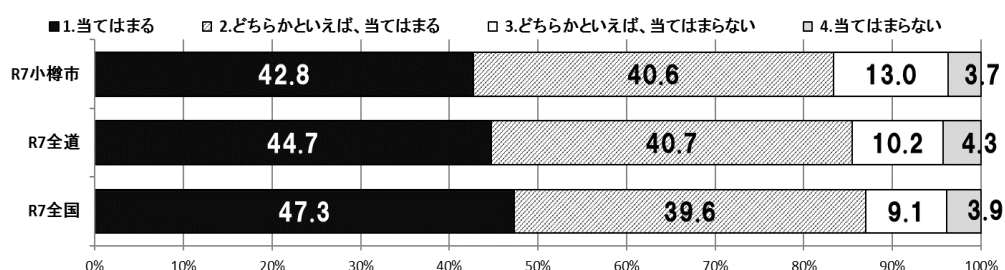
10 自分には、よいところがあると思いますか。

※「その他」「無回答」の数値は記載しておりません。

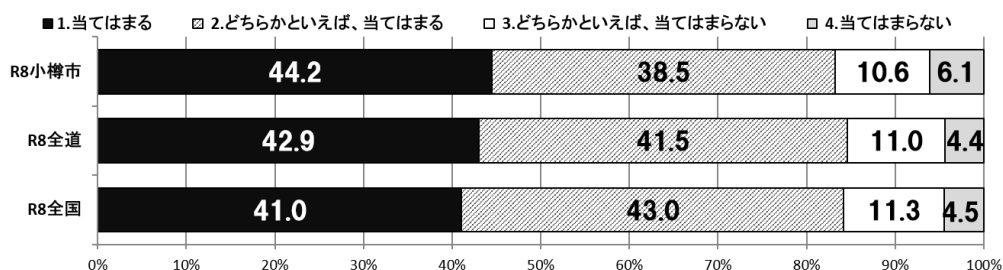
【小学校】＜令和8年度＞



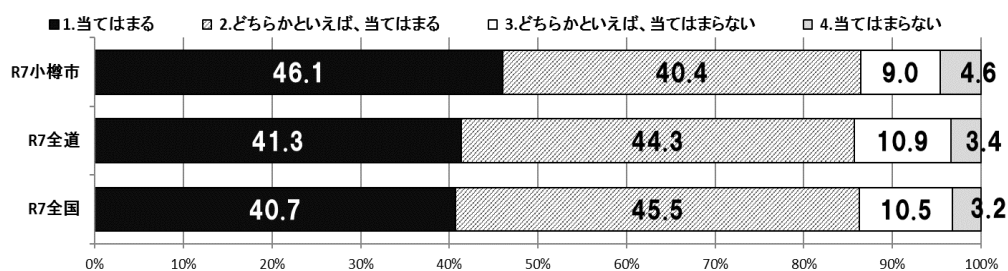
【小学校】＜令和7年度＞



【中学校】＜令和8年度＞



【中学校】＜令和7年度＞

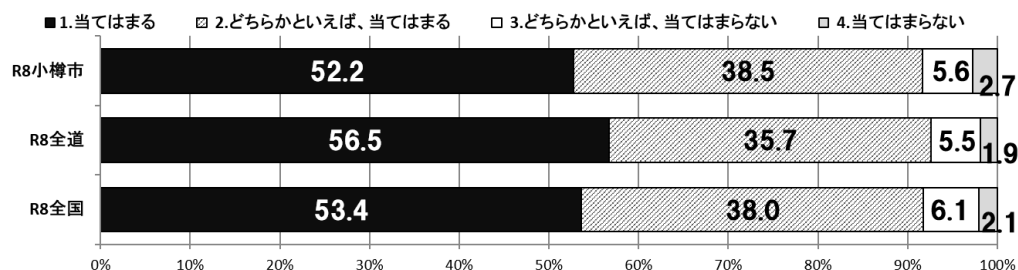


- ・小学校は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合が、81.5%で、全国（85.6%）と比べ、4.1ポイント低くなっています。中学校は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合が82.7%であり、全国（84.0%）と比べ、1.3ポイント低くなっています。
- ・学校生活において、児童生徒の行動や努力を認め価値づけるなど、一人一人が安心して過ごせるような温かい環境づくりに努める必要があります。

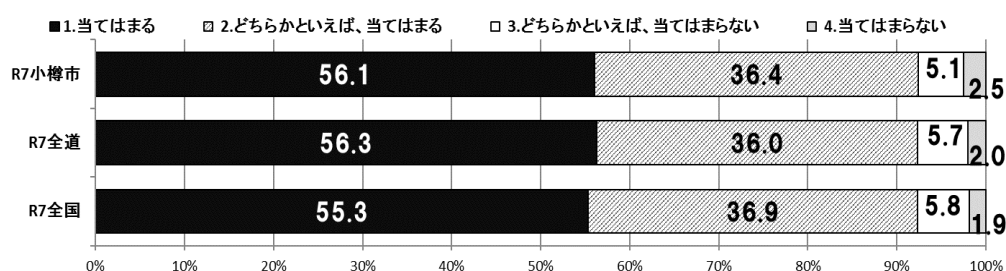
11 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。

※「その他」「無回答」の数値は記載しておりません。

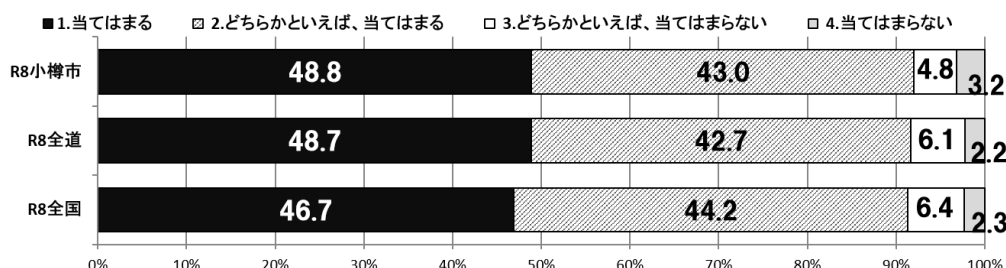
【小学校】＜令和8年度＞



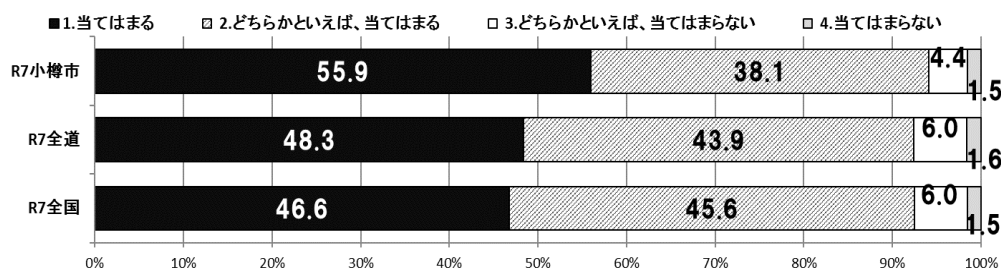
【小学校】＜令和7年度＞



【中学校】＜令和8年度＞



【中学校】＜令和7年度＞

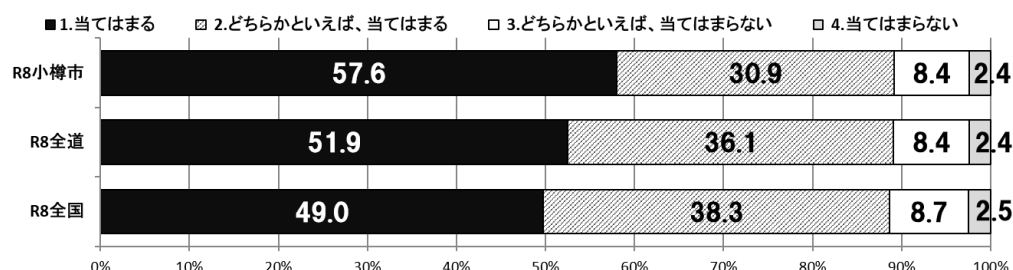


- ・小学校は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合が、90.7%で、全国（91.4%）と比べ、0.7ポイント低くなっています。中学校は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合が91.8%であり、全国（90.9%）と比べ、0.9ポイント高くなっています。
- ・児童生徒一人一人の個性や努力の状況をこまめに見とり、好意に満ちた言葉がけを意識的に行うなど、自己肯定感を高めるためのかわりを小学校段階から継続していくことが大切です。

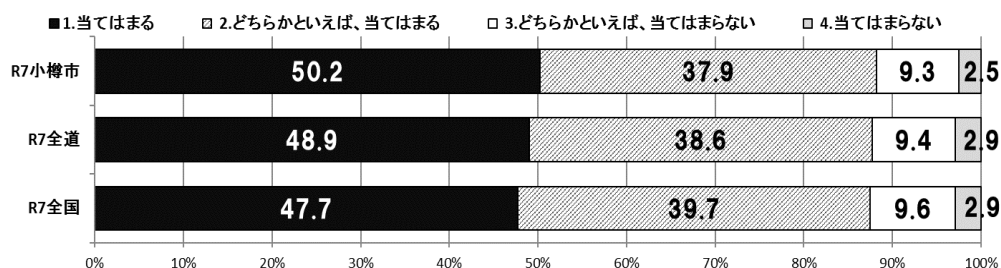
12 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。

※「その他」「無回答」の数値は記載しておりません。

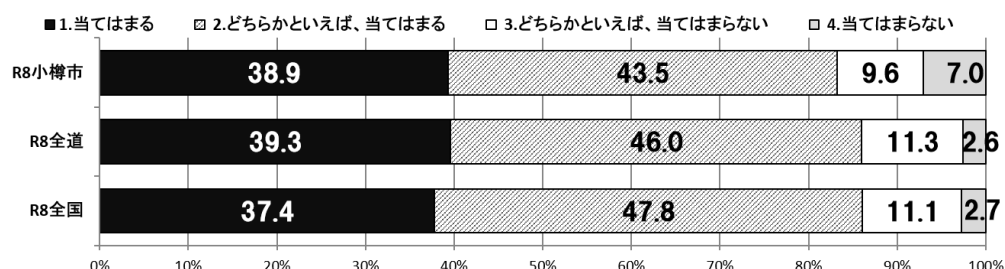
【小学校】＜令和8年度＞



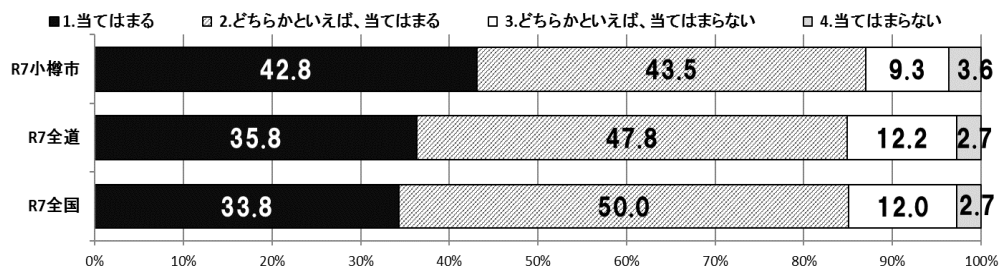
【小学校】＜令和7年度＞



【中学校】＜令和8年度＞



【中学校】＜令和7年度＞

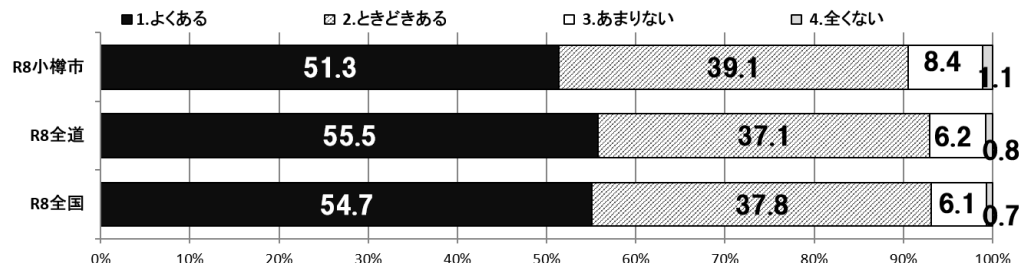


- ・小学校は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合が、88.5%で、全国（87.3%）と比べ、1.2ポイント高くなっており、中学校は、82.4%で、全国（85.2%）と比べ2.8ポイント低くなっています。
- ・「わかる」「できる」授業の実現に向け授業改善を進めるとともに、一人一人の学習状況に応じたきめ細かな指導を継続していくことが大切です。

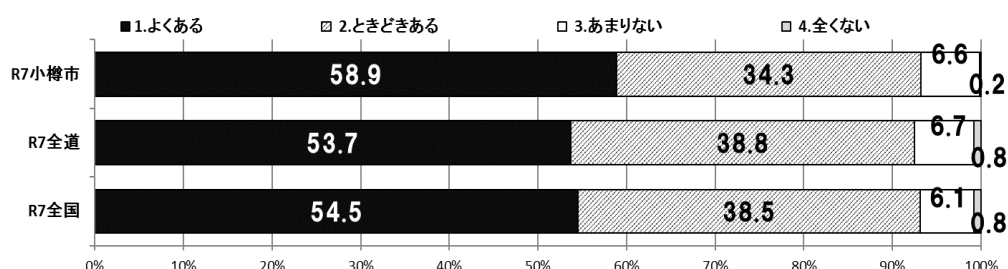
1 3 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。

※「その他」「無回答」の数値は記載しておりません。

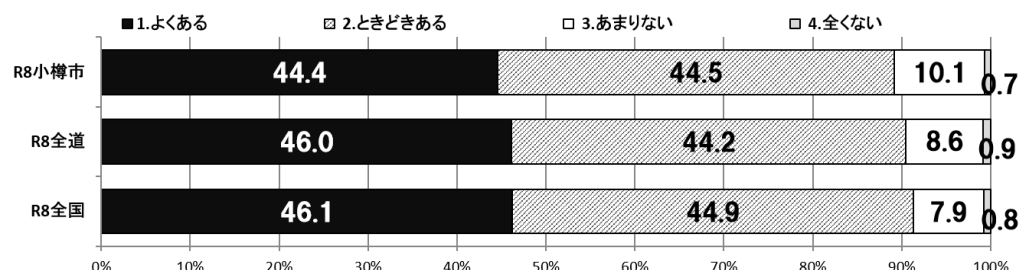
【小学校】＜令和8年度＞



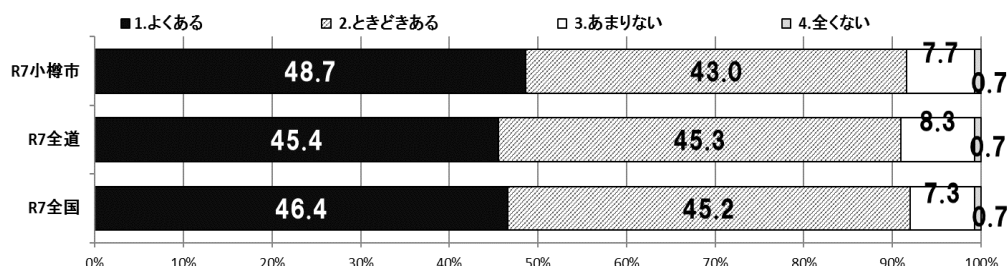
【小学校】＜令和7年度＞



【中学校】＜令和8年度＞



【中学校】＜令和7年度＞

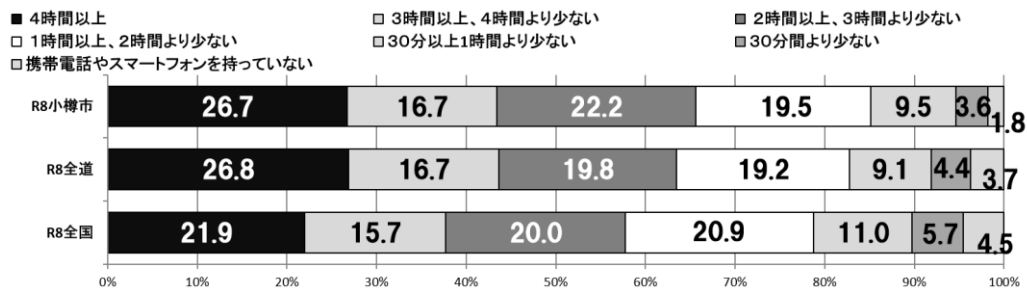


- ・ 小学校は、「よくある」「ときどきある」の割合が、90.4%で、全国（92.5%）と比べ、2.1ポイント低くなっています。中学校は、「よくある」「ときどきある」の割合が88.9%であり、全国（91.0%）と比べ、2.1ポイント低くなっています。
- ・ 児童生徒一人一人の個性や努力の状況をこまめに見とり、好意に満ちた言葉がけを意識的に行うとともに、児童生徒自身が自らの成長を実感できるような活動を意図的、計画的に行っていくことが大切です。

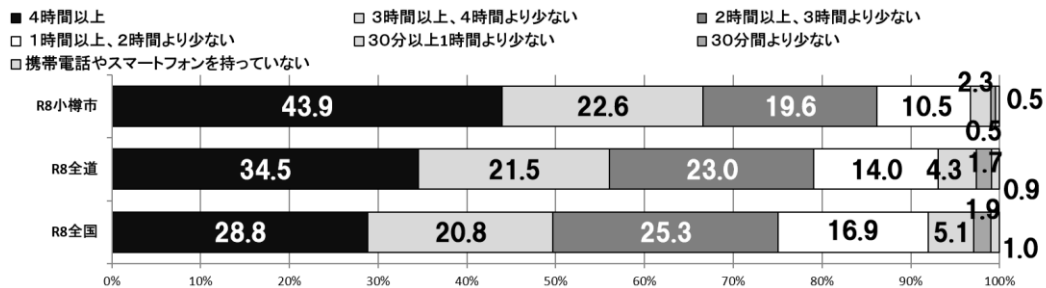
14 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等（以下、「スマートフォン等」）でSNSや動画視聴などをしますか（スマートフォン等を使って学習する時間やゲームをする時間は除く）

※「その他」「無回答」の数値は記載しておりません。なお、本項目は、今年度新たに追加された項目となります。

【小学校】＜令和8年度＞



【中学校】＜令和8年度＞



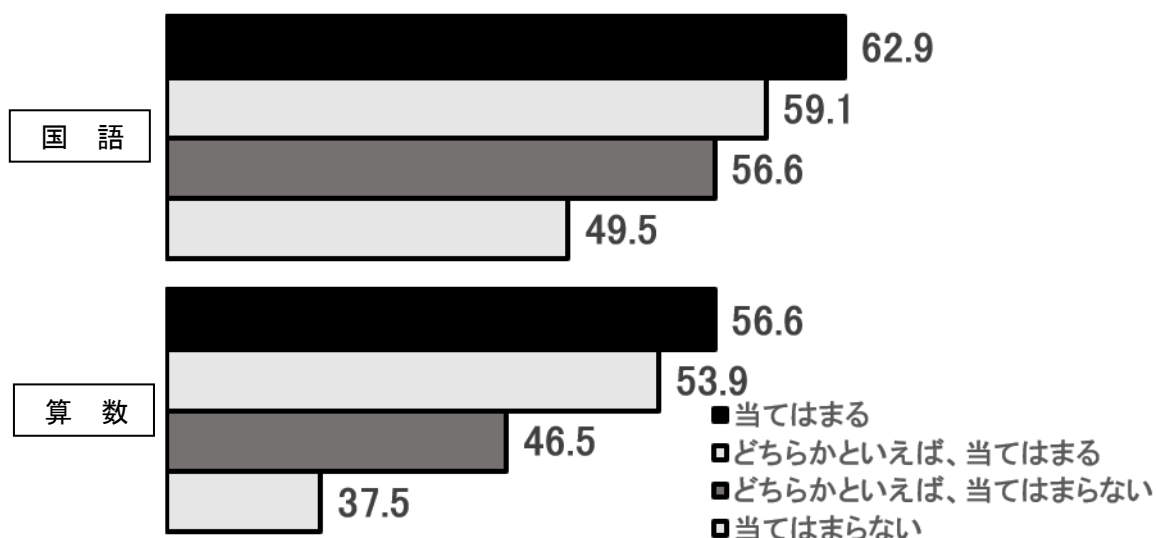
- ・小学校は、「2時間以上」SNSや動画視聴などを行っている割合が、65.6%で、全国（57.6%）と比べ、8.0ポイント高くなっています。中学校は、「3時間以上」SNSや動画視聴などを行っている割合が66.5%であり、全国（49.6%）と比べ、16.9ポイント高くなっています。
- ・小中学校ともに、全国よりもSNSや動画視聴をしている時間が長くなっており、家庭学習や睡眠の時間を圧迫するなど、学習習慣や生活習慣の乱れに影響を与えるものと考えられます。
- ・学校と家庭が連携しながら、電子メディア（スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等）との関わり方を児童生徒が自ら考え、使用時間を制限するなどの取組を一層強化するなどして生活習慣の改善を図るとともに、児童生徒一人一人の家庭学習の取組を点検し、個に応じた働きかけを行う必要があります。

Ⅳ 児童生徒質問調査結果と平均正答率との相関

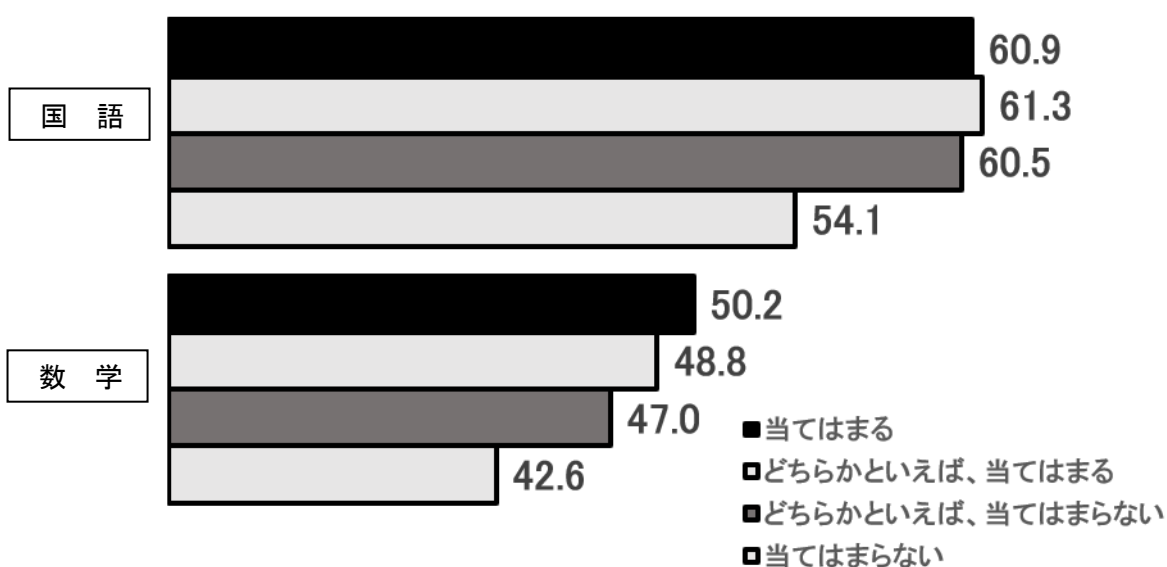
※児童生徒質問調査の回答と各教科の平均正答率との相関について、主なものを掲載しています。

- 1 「学校に行くのは楽しいと思いますか。」との質問に肯定的に回答した児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向にあります。

【小学校】

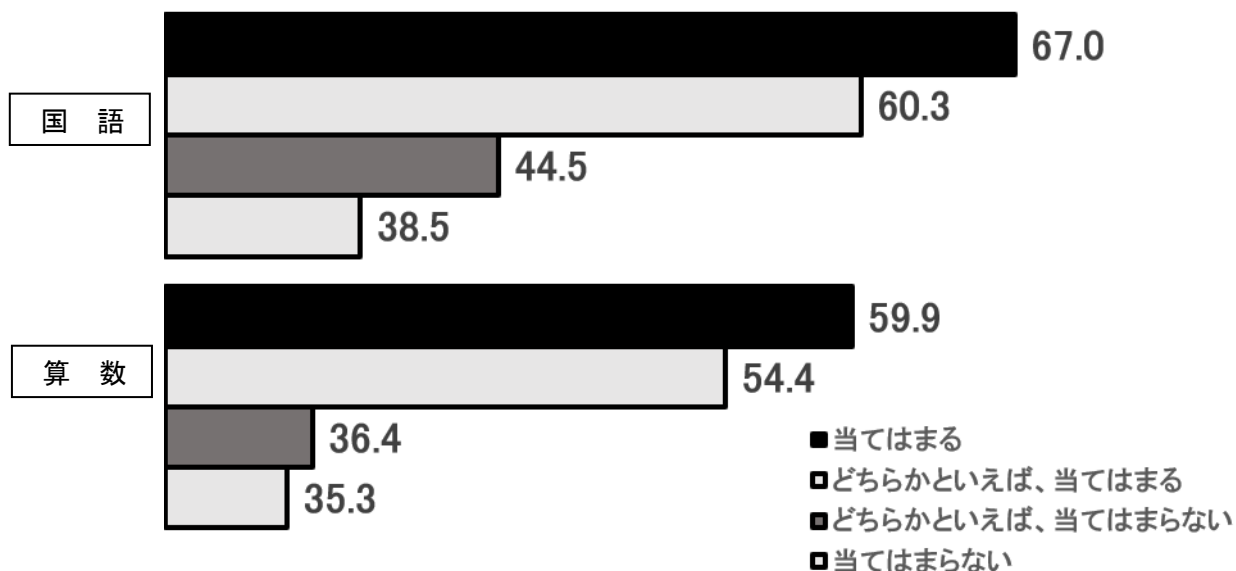


【中学校】

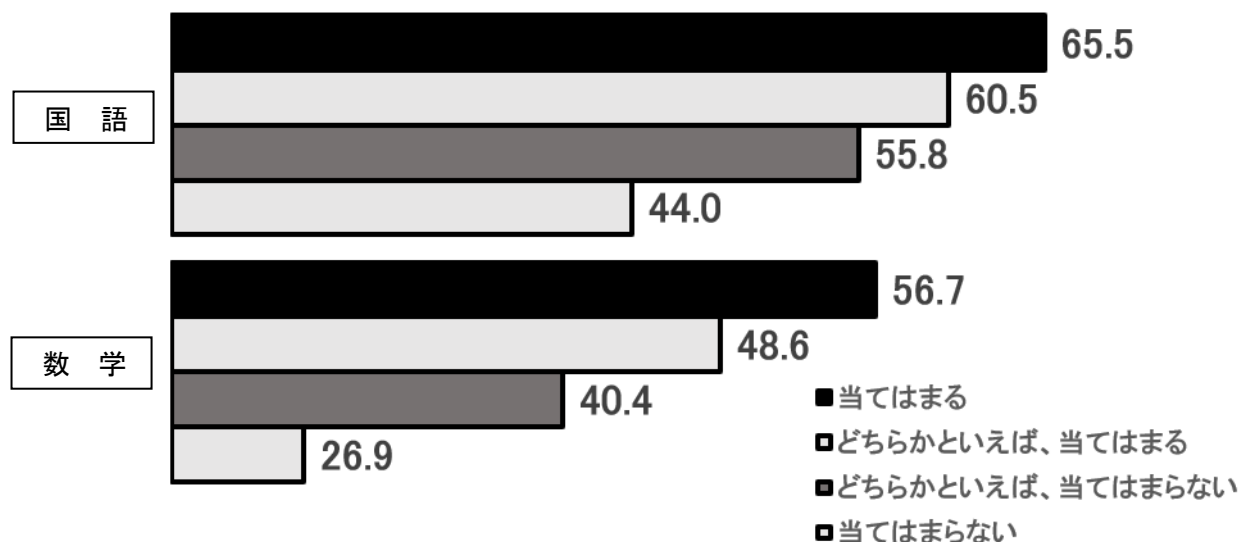


2 「5年生まで（中学校は1、2年生まで）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」との質問に肯定的に回答した児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向にあります。

【小学校】

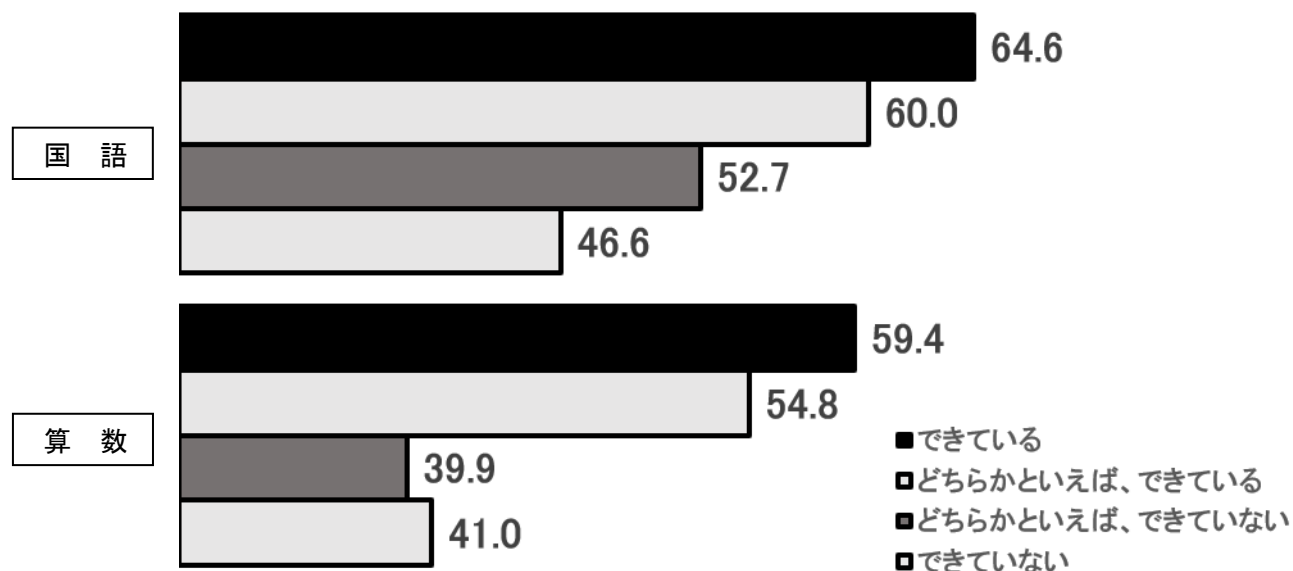


【中学校】

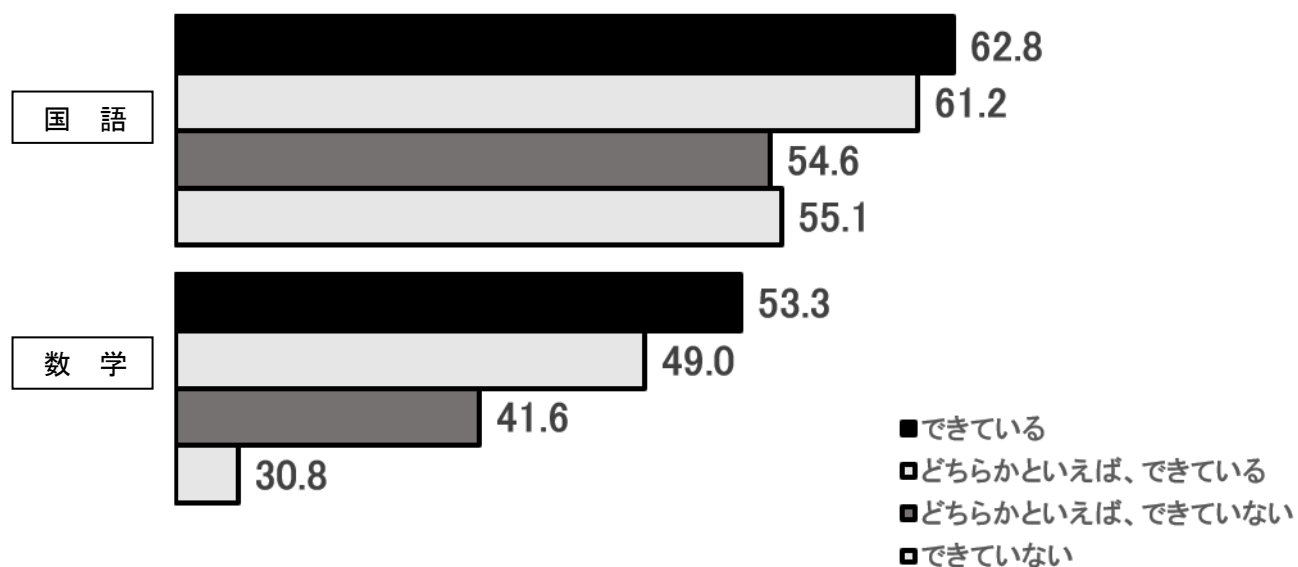


3 「分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」との質問に肯定的に回答した児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向にあります。

【小学校】

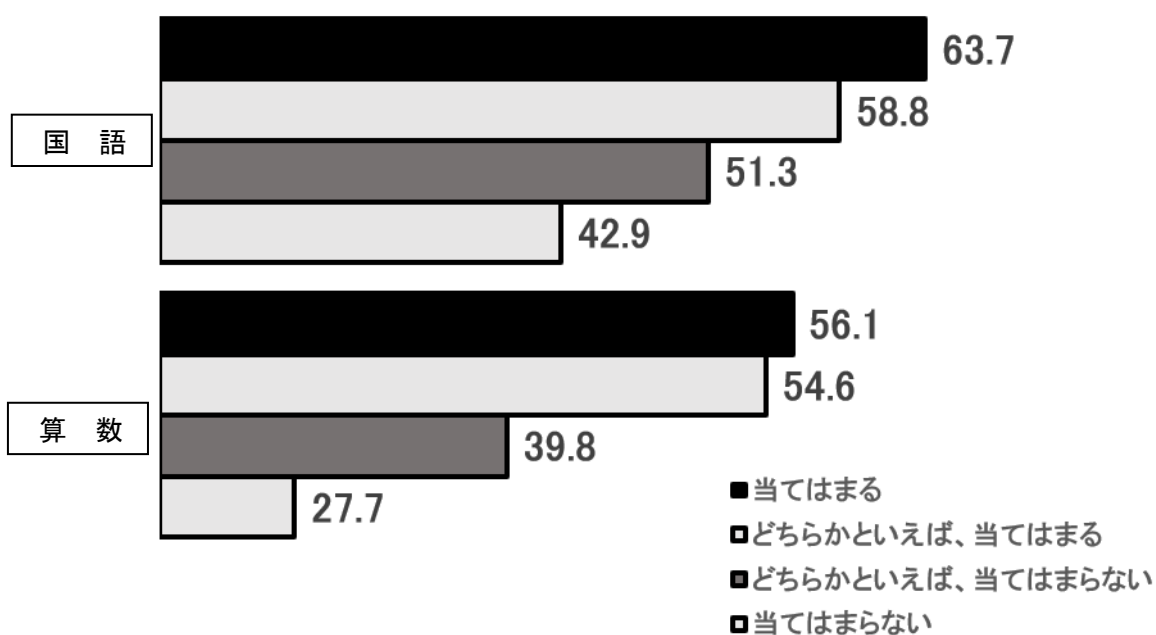


【中学校】

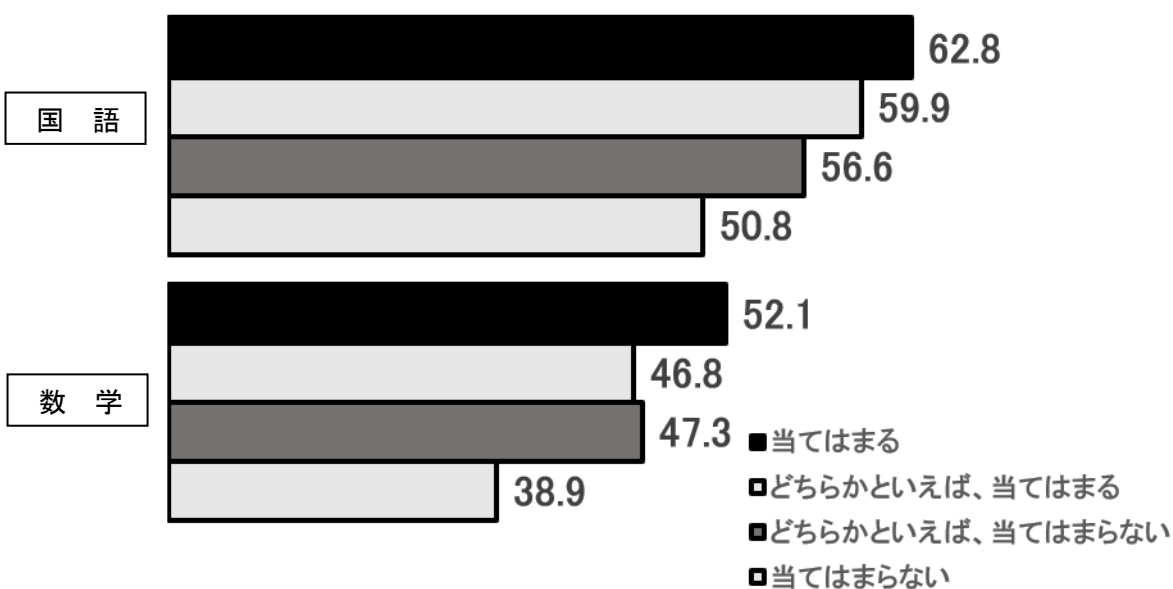


4 「学級の友達（中学校は生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」との質問に肯定的に回答した児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向にあります。

【小学校】

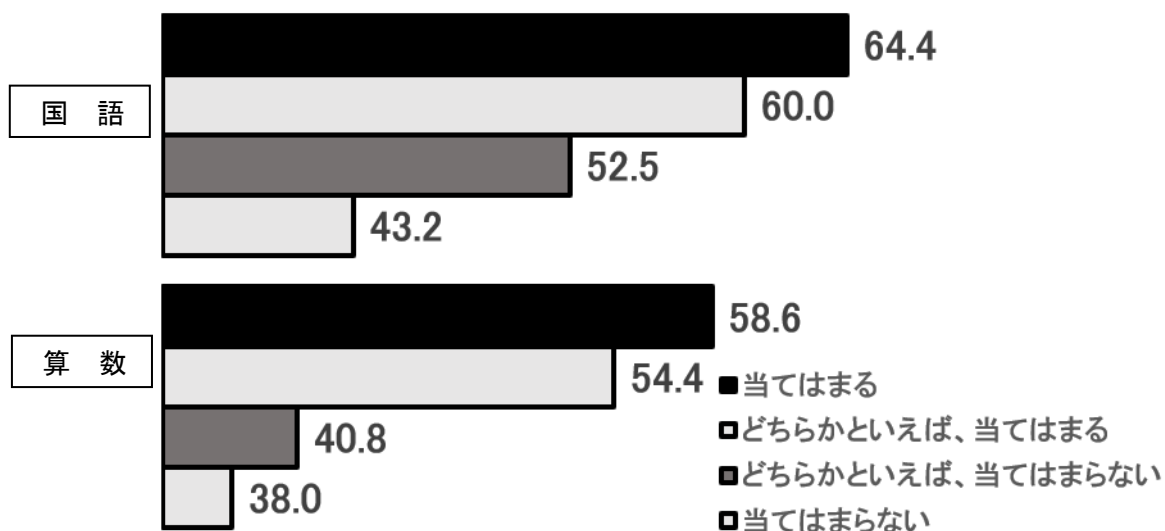


【中学校】

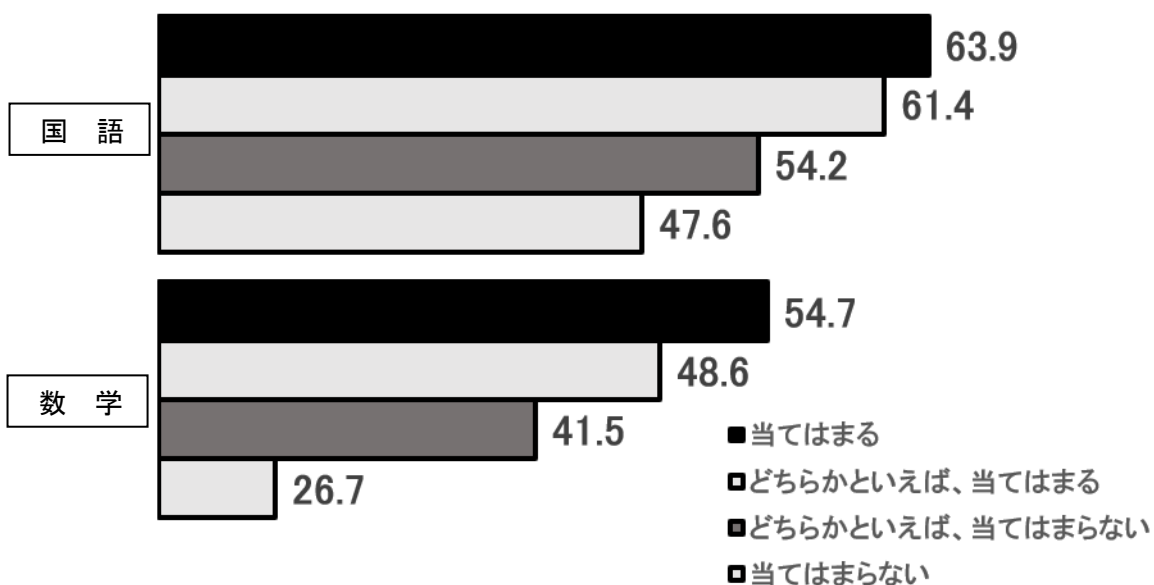


5 「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」との質問に肯定的に回答した児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向にあります。

【小学校】

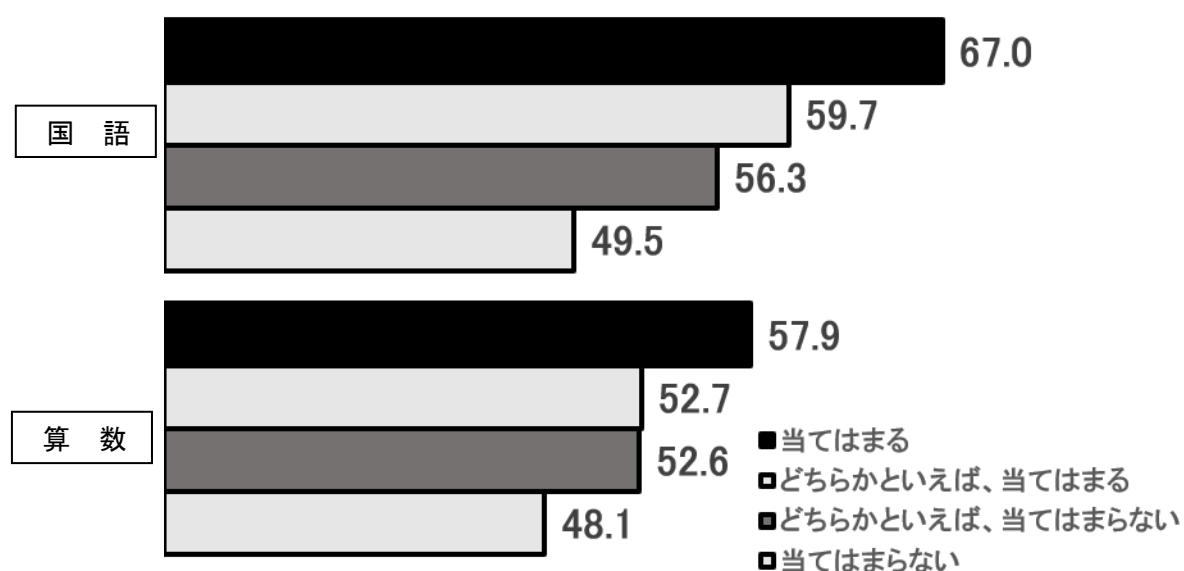


【中学校】

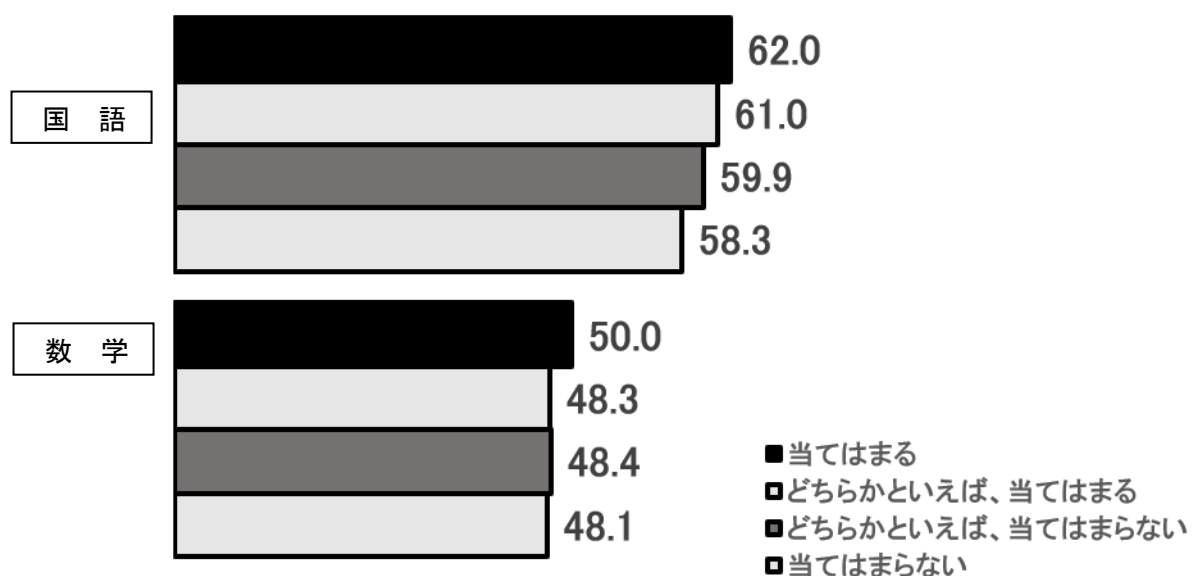


6 「国語の勉強は好きですか」との質問に肯定的に回答した児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向にあります。

【小学校】

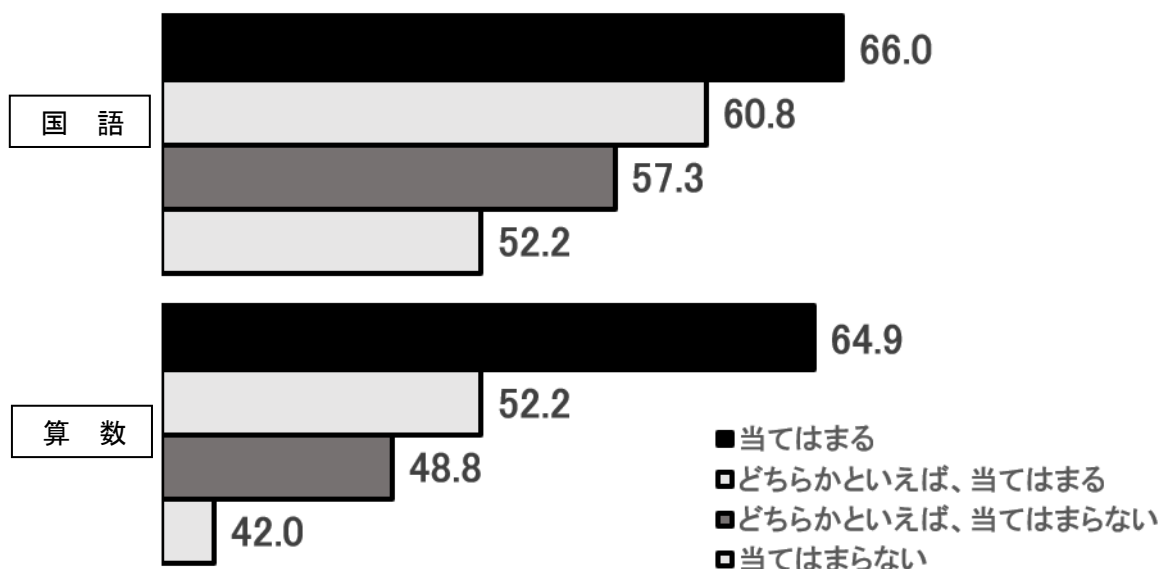


【中学校】

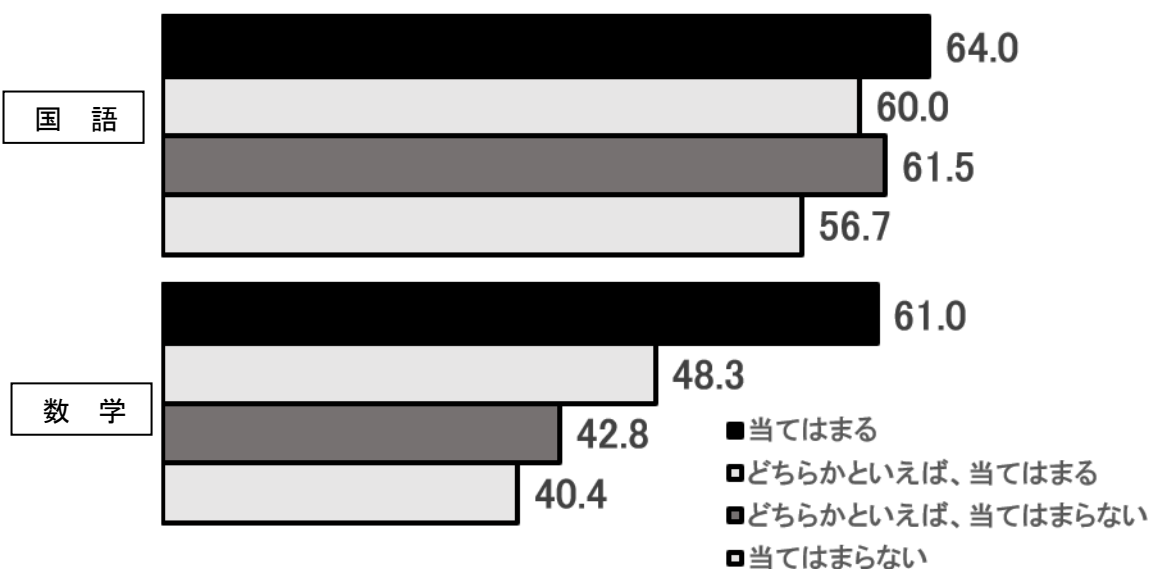


7 「算数・数学の勉強は好きですか」との質問に肯定的に回答した児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向にあります。

【小学校】



【中学校】



V 令和8年度全国学力・学習状況調査の結果を受けた取組

各学校の取組

1 安心して学べる学級づくり

教科の指導と生徒指導の一体化により、安心して学べる学級づくりを徹底し、児童生徒の学びに向かう姿勢を育むとともに、各学校の強みを生かし、弱みを補いながら、学校で足並みの揃えた指導を充実させます。

2 授業改善の推進

「小樽授業づくりの5つのSTEP!!」に基づき、「子どもが主体的に学ぶ授業」を展開するとともに、「プラスワン」を合言葉に定着の時間を意図的に位置付けます。

※「プラスワン」とは、授業の終末等において、学習した内容の確実な定着を図ること。

3 家庭学習の習慣化に向けた取組

家庭学習時間を増やすために、国語と英語の音読に確実に取り組み、必ず課題を出し、児童生徒が「学年×10分+10分」以上、その日に学習した内容の復習や学習の定着に課題が見られる内容などに繰り返し取り組ませ、必ず土日にも勉強する時間を設けます。また、朝学習や放課後学習の充実などを通して、学習習慣の確立を目指す時間を設けます。

4 生活習慣の改善に向けた取組

小樽市小中学校体力向上検討委員会が作成している啓発資料「朝ごはんで体力アップ!」を活用するなどして、朝食を毎日食べる習慣の定着に向けて、家庭に協力を依頼するとともに、「生活習慣スケジュール表」などを活用し、子どもの生活習慣の改善に向けた意識を高めるように指導します。

市教委の取組

1 学校訪問による個別の指導助言

全国学力・学習状況調査の結果分析を踏まえ、各学校の課題や取組状況について指導助言を行います。

2 小樽市小中学校学力向上検討委員会の開催

小樽市小中学校学力向上検討委員会を設置し、分析結果を踏まえた具体的な改善方策を検討します。

3 授業改善に資する教員向け研修会の開催

外部講師を招聘した授業改善に資する研修会（国語、算数・数学、理科、外国語）やICT活用に関する研修会を開催するとともに、若手教員の指導力向上を図ります。

4 小樽市教育研究所の取組

研究員による全市公開授業や所報「還流」の発行を通して、本市の児童生徒の「確かな学び」を育む研究の推進について発信するとともに、調査研究活動事業指定校・団体による研究活動について指導助言します。

5 学習習慣及び生活習慣の改善に向けた取組

家庭学習の習慣化と生活習慣の改善に向け、保護者及び児童生徒向けの啓発資料を繰り返し配付するとともに、成果を上げている学校の事例を周知するなどし、学習習慣等の改善を図ります。

小樽授業づくりの5つのSTEP！！

～子どもが主体的に学ぶ授業～

基盤

安心して学べる学級づくり

- ①自己存在感の感受
- ②共感的な人間関係の育成
- ③自己決定の場の提供
- ④安全・安心な風土の醸成

単元構成

I 単元及び本時の目標と評価規準を明確にする

授業者は、単元を通して子どもにどのような力を身に付けさせたいかを明確にし、各時間における評価規準と評価の場面・方法を明らかにすることで、目標と指導と評価の一体化を図ることができます。

II 本時の課題をつかみ、学習の見通しをもつ

本時の目標を子ども自身が自分事として捉えることができるよう、課題設定や発問等を工夫することで、子どもが学習の見通しを持ち、主体的に学ぶことができます。

III 主体的に課題解決に向かう



自分の考えを持つ。



対話を通じて考えを深める。



授業者の一方的な説明ばかりではなく、子ども自身が「どのように学ぶか」を選択したり、自己決定したりする場を設定することで、主体的に学ぶことができます。

IV 学びの足跡を残す（ノート・端末）

学習の過程が分かるようなノート指導を行うとともに、端末を活用して学習の記録を蓄積していくことで、学んだことを振り返ることができ、学習内容の定着につながります。

V 学んだことを振り返る

学習した内容の定着を図る問題を解くなどして、「何が身に付いたか」を子ども自身が認識するとともに、次の学習の見通しや生活場面への転換など、学びを深めたり、広げたり、つなげたりすることができます。

家庭学習の充実

「学年×10分+10分」以上
(中学1年生は「第7学年」とする)

- ・宿題（音読、漢字、計算、自主学習ノート等）の出し方について、学校全体や学年、教科間で共通理解を図る。
- ・家庭と連携し、達成感や自己肯定感を高めるための児童生徒への働きかけ（励ましやコメントなど）を意識する。
- ・Chromebookを持ち帰り、復習や定着に課題が見られる内容に繰り返し取り組む。

学習における1人1台端末活用例

前時までの振り返り
・ Classroom
・ 撮影した板書
・ スクリーンショットした画像
など

教材の提示
・ スライド
・ classroom課題一斉配付
・ 画像等を提示
など

調査活動
・ Google検索
・ Google meet
思考を深める
・ デジタル教材表現・制作
・ スライド
・ サイト
など

他者参照
・ スプレッドシート
・ スライド
・ Canva
発表・話し合い
・ ドキュメント
・ スライド
協働での意見整理
・ スライド
・ Classroom
・ Canva
など

個に応じた学習
・ デジタルドリル
学習過程を蓄積
・ カメラ機能
・ スクリーンショット
振り返りの共有
・ Classroom
・ スプレッドシート
など

家庭学習
・ デジタルドリル
・ スライド
・ Classroom
・ ドキュメント
など

